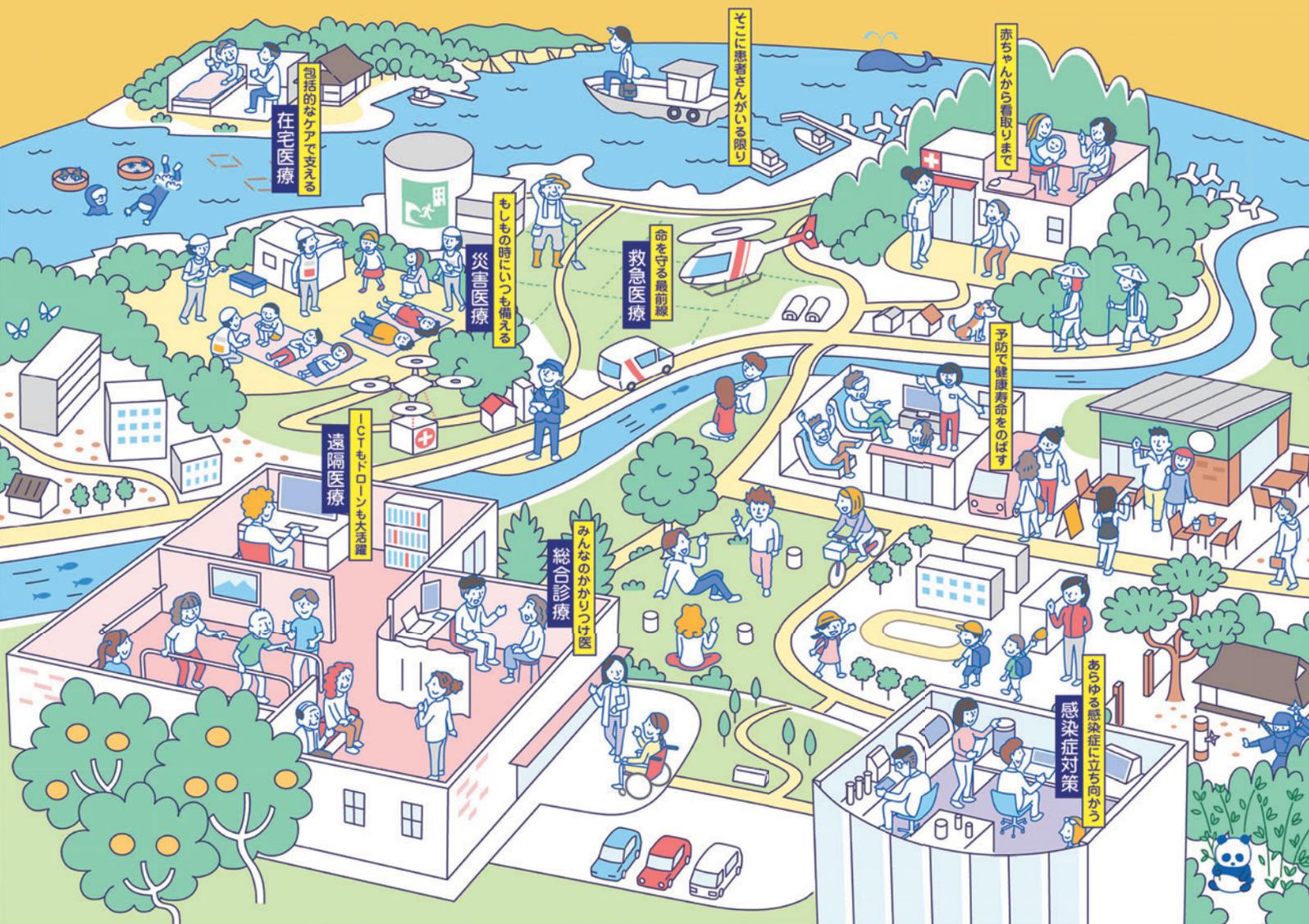




令和6年度 事業報告書

(令和6年4月～令和7年3月)

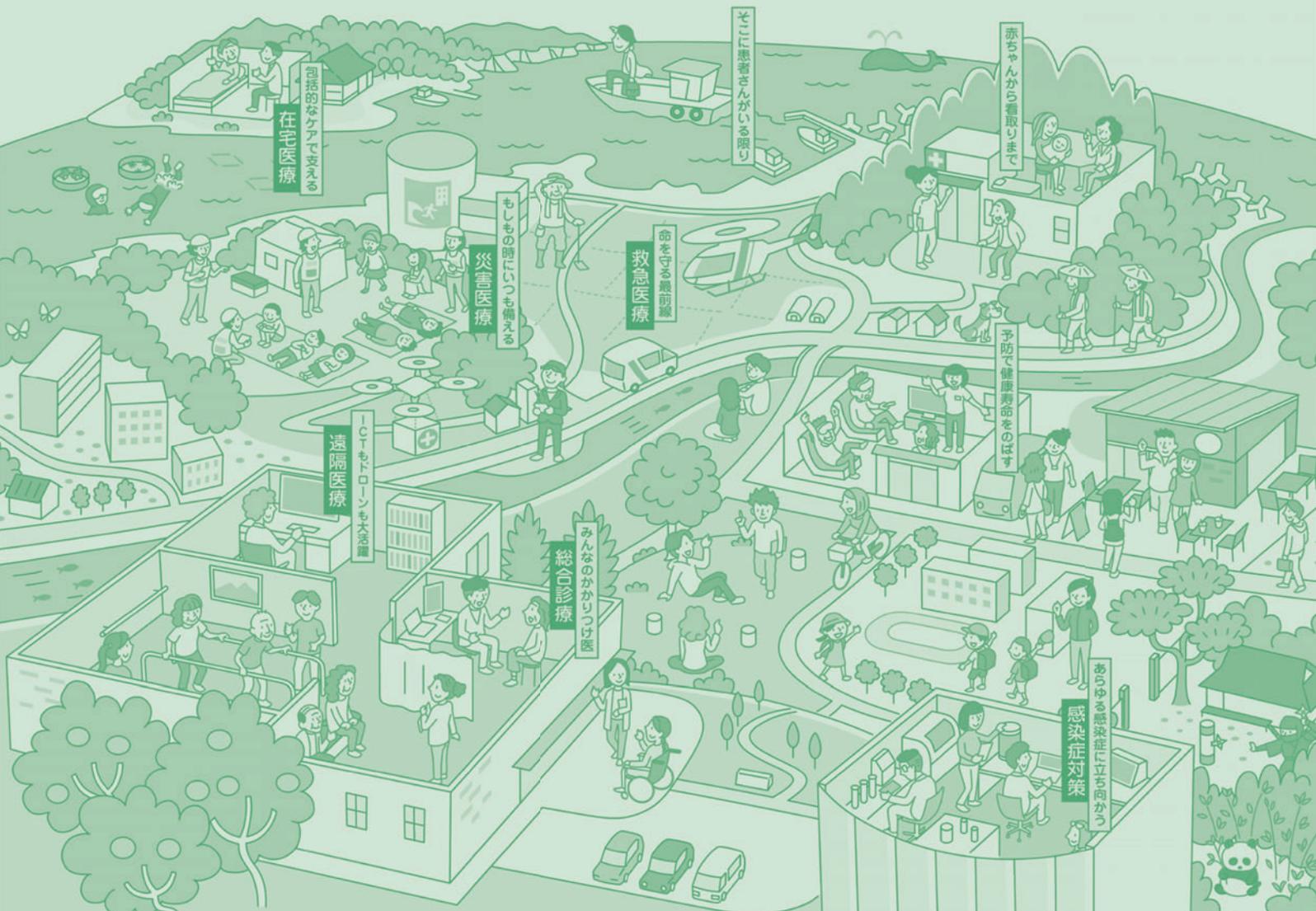




I	黒潮医療人養成プロジェクト事業概要	2
	黒潮医療人養成プロジェクトとは?	2
	3 大学の教育プログラム	4
	3 大学の教育プログラムの実施概況（令和6年度）	7
II	事業実施・評価の体制	10
	1. 事業実施体制	10
	2. 事業評価体制	14
III	事業実施状況報告	16
	1. 教育プログラム	16
	① 高知大学	16
	② 和歌山県立医科大学	20
	③ 三重大学	24
	2. 大学間連携事業	30
	① e-learning	30
	② 合同シンポジウム	33
	③ 学生相互派遣・交流	38
	④ サイトビジット	42
	3. 地域志向性アンケート調査	45
	① 研究計画書	45
	② 令和6年度調査結果	46
	③ 経年比較	47
	4. 広報活動	53

I

黒潮医療人養成プロジェクト 事業概要



I 黒潮医療人養成プロジェクト事業概要

地域から日本の医療の未来を描く！

黒潮医療人養成プロジェクトとは？

本プロジェクトは文部科学省の「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」として採択された7年間の事業です。高知大学を代表校として、和歌山県立医科大学、三重大学とともに地域ニーズに応える総合的な能力を有する「黒潮医療人」を養成することを目標としています。

3大学の立地する3県は、太平洋に面し長い海岸線を有するという地形的な特徴があり、県中心部より遠隔地の過疎高齢化の進展、医療確保が課題となっています。さらに、南海トラフ巨大地震の震源域にあり、発災時には大きな津波被害が想定され、災害医療、公衆衛生において大きな地域ニーズが発生することが予測されています。

このような地域課題を共有する3大学において、行政、地域医療機関とも連携し、学生がより深く学ぶことができるよう医学部教育の継続的な改善を目指すものです。

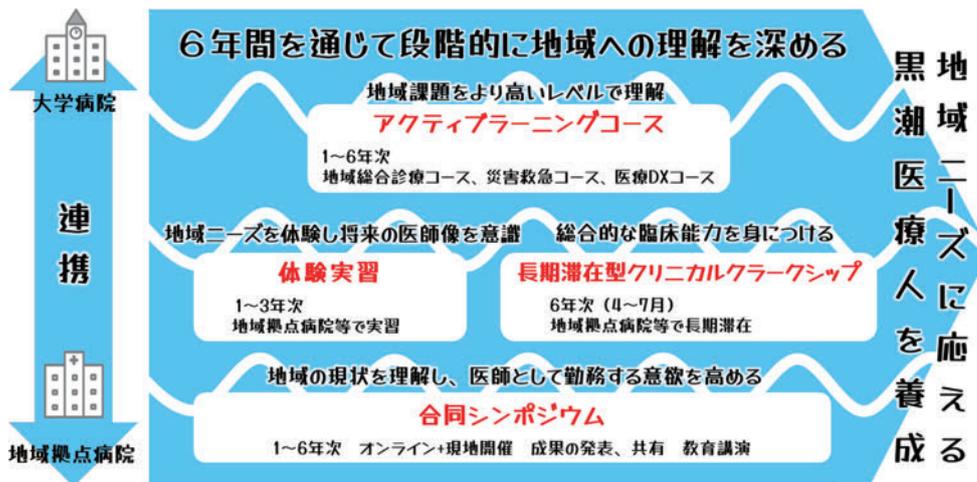
本プロジェクトでは、大学外の地域の医療を担う病院を地域医療人材養成拠点病院と位置づけ、体験実習や長期滞在型クリニカルクラークシップの実習を展開します。これらの病院には、地域卒卒業医師も多く勤務しており、キャリア教育の面からも期待されます。



黒潮医療人養成プロジェクト参加施設

黒潮医療人養成プロジェクトの教育プログラム

本プロジェクトでは、①体験実習、②アクティブラーニングコース、③長期滞在型クリニカルクラークシップ (LIC) を各大学のカリキュラムに沿って実施していきます。



黒潮医療人養成プロジェクトの教育プログラム概要

これらの教育プログラムの実施には、地域医療人材養成拠点病院を学びのフィールドとして活用します。サイトビジット、授業の相互参観、e-learning コンテンツの共同制作、学生の相互交流などを積極的に進め、継続的に質の向上を目指します。また、年1回合同シンポジウムを開催し、相互交流を進めるほか、ウェブサイトやSNSを活用した情報発信もおこないます。

3大学間の学びの共有で、質の高い教育を実現

大学間相互交流

本プロジェクトでは、3大学の学生相互交流を積極的に推進しています。

長期滞在型クリニカルクラークシップ(LIC)では、令和5～6年度に3大学計21名の学生が、大学間の学生相互派遣を通じて県外の地域拠点病院で実習を行いました。また、アクティブラーニングコースでは、3大学の学生による合同実習や学会への合同参加を実施しています。

異なる大学との交流は、学生に新たな学びや刺激をもたらすだけでなく、教員にとっても互いの優れた取り組みを取り入れる機会となり、教育の質の向上につながると実感しています。



LICでの学生相互交流：
(上)和医大生と高知大生が高知県で離島実習。
(右)三重大生が高知大生と一緒にカンファレンスに参加（高知県立あき総合病院）。



LIC期間中、3県の地域医療人材養成拠点病院と各大学をオンラインでつないでの合同振り返りを週1回実施

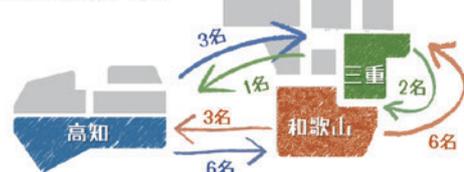
アクティブラーニングコース（地域総合診療コース）での3大学合同での学会参加：3大学で計19名の学生が参加しうち3名が演題発表。



アクティブラーニングコース（災害救急・感染症コース）での3大学合同実習：(上)高知県総合防災訓練に3大学で計87名の学生が参加。(右)三重大学附属病院の大規模防災訓練に3大学で計147名の学生が参加。



LICにおける大学間学生相互派遣実績（令和5～6年度）：
3大学で計21名



期待される効果

地域医療に従事する医師の養成には、学生時代の地域医療に関する実習等を通じた地域医療マインドの涵養が重要であることが認識されています。本プロジェクトを通して、継続的な教育の質の向上とともに、地域に定着する医師の増加、分野横断的な診療科に進む医師の増加が期待されます。具体的には、地域ニーズの大きいものの十分に養成の進んでいない総合診療科、救急科、感染症科を選択する地域卒卒業医師が増加することを達成目標の一つとしております。

本プロジェクトは地域卒学生のみならず、興味のある医学生は誰でも参加可能です。多くの学生を迎え、6年間を通じ多様な学びを提供し、地域ニーズに応える医療人の養成を目指します。



黒潮医療人養成プロジェクト
ウェブサイト
URL: <https://kuroshio-pjt.com/>



Instagram
ID: kuroshio_pj



黒潮医療人養成プロジェクト

I. 事業概要

■ 3 大学の教育プログラム

① 体験実習

低学年から地域医療人材養成拠点病院や地域に赴き、現場の医療を体験したり、地域診断等のプログラムを通して、地域のニーズを体験します。

大学名	対象学年 日程	人数 (年次)	内 容
高知大学	1年次 2月/8日間	20人	<ul style="list-style-type: none"> 大学病院での実習「臨床体験実習Ⅰ」「臨床体験実習Ⅱ」「臨床体験実習Ⅲ」を、地域医療人材養成拠点病院でも選択可能とする
	2年次 9月/8日間	20人	<ul style="list-style-type: none"> 各病院に在籍する地域卒業医師（臨床研修医、専攻医）と学生がペアとなり、マンツーマンで直接指導を受ける 救急受診、入退院支援、在宅医療など地域ニーズを理解できる内容を学ぶ
	3年次 2月/8日間	20人	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップや地域踏破など、病院外の実習プログラムも含む 全学生を対象とするが、希望者多数の場合は地域卒学生を優先する
和歌山県立 医科大学	2年次 10月/2日間	6人	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の一環である附属病院での病棟実習Ⅰ、病棟実習Ⅱを地域医療人材養成拠点病院等でも実施可能とする 在籍する地域卒業医師とペアとなり直接指導を受ける
	3年次 2月/2日間	6人	<ul style="list-style-type: none"> 地域卒学生が主であるが一般卒学生も選択可とする 地域医療におけるコメディカルの役割、チーム医療についての理解を深め、医療の専門職としての役割の自覚と責任を感じる機会とし、モラル・人間性も身につける
三重大学	1・2年次 通年	205人	<ul style="list-style-type: none"> 7～8名のグループにわかれ、各グループが県内全29市町村のうちの1市町村に2年間継続して関わる 1年次は地域調査・地域診断をおこない、2年次には地域診断の結果に基づいて地域貢献活動を実施する 全体講義、自己学習、グループ学習（教員・市町村担当者からの指導を含む）、実習により構成する 看護学科との合同授業

2 アクティブラーニングコース

複数年次にわたる能動的な調査・研究活動を通じ、地域課題をより高いレベルで理解します。

大学名	コース名	対象学年 日程	人数 (年次)	内 容
高知大学	地域総合 診療コース	2年次～ 4年次 通年 半日× 2回/週	5人	<ul style="list-style-type: none"> 先端医療学推進センター「地域総合診療・臨床疫学研究班」所属 臨床現場での経験を通して、地域医療課題を抽出し、臨床疫学研究に取り組む 3年間で1回以上の学会発表もしくは論文執筆をおこなう
	医療DX コース		5人	<ul style="list-style-type: none"> 先端医療学推進センター「医療DX・データヘルス研究班」所属 ICTを活用した遠隔医療、医療連携、多職種協働の現状について学習する EHR (Electronic Health Record)、PHR (Personal Health Record) を活用した地域支援について学習する 3年間で1回以上の学会発表もしくは論文執筆をおこなう
	災害救急・ 感染症コース		10人	<ul style="list-style-type: none"> 先端医療学推進センター「感染・災害救急医療研究班」所属 救護所設営等の救急医療災害訓練、津波避難タワー1泊体験実習、'98豪雨被災地見学研修などの災害実習を通して、避難所での感染症予防対策、感染症・災害医療の知識を習得する 3年間で1回以上の学会発表もしくは論文執筆をおこなう
和歌山県立 医科大学	地域総合 診療コース	1年次～ 5年次 5日間 または 10日間	5人	<ul style="list-style-type: none"> 地域医療の課題についての事前学習として、アクティブラーニング(問題基盤型学習(PBL)、チーム基盤型学習法(TBL)、Case-based Discussion(CBD)等)、グループワーク、オンデマンド教材により集中的に習得する 学生の希望によりマッチングした地域拠点病院・保健所で実習
	災害救急・ 感染症コース	3年次	10人	<ul style="list-style-type: none"> 臨床医学系講義「救急医学」の中に、災害医療関連の講義1コマを組み込む 夏期休業中に課外実習3コマを実施する；①津波関連施設の見学・体験、②避難所の設置・運営・応急手当、③避難所に関わる予防医学(感染症を含めて)
三重大学	地域総合 診療コース	1年次～ 6年次	8人	<ul style="list-style-type: none"> 新医学専攻コース(1～6年次)、研究室研修(3～4年次)の枠組みで総合診療医養成を目的として、研究活動と能動的学習を拡充したコース 4年次に学内での成果発表会で発表をおこなう 6年間で1回以上の学会発表もしくは論文執筆をおこなう
	災害救急・ 感染症コース	3年次～ 6年次	125人	<ul style="list-style-type: none"> PBLチュートリアル教育(3～4年次)において新興感染症事例を通して学ぶ 感染症ユニット期間中に中部国際空港検疫施設での終日の実習(希望者20名) 臨床実習前集中講義において感染症疫学シリーズを設定する 全科ローテーション型臨床実習(4～5年次)・救急部ローテーションにおいて、感染症患者に対する救急対応をAR(Augmented reality 拡張現実)機器を活用して学習する

I. 事業概要

③ 長期滞在型クリニカルクラークシップ (LIC)

地域医療人材養成拠点病院で長期滞在型のクリニカルクラークシップをおこない、総合的な診療能力を身につけます。

大学名	対象学年 日程	人数 (年次)	内 容
高知大学	6年次 4ヶ月間のうち 4週間以上	12人	<ul style="list-style-type: none">総合診療、救急、感染症など地域ニーズに応えられる総合的な臨床能力を身につける外来・救急での初期対応から、入院診療、退院調整など一人の患者に継続的に関わる救急、感染症などについて、オンラインでの指導、オンデマンド教材の視聴などにより学習する
和歌山県立 医科大学	6年次 6ヶ月間のうち 3週間	25人	<ul style="list-style-type: none">入退院支援～在宅療養までICTシステムを活用した多職種協働（情報共有、カンファレンス等）に参加する大学病院・地域医療人材養成拠点病院との遠隔カンファレンス、地域医療人材拠点病院・診療所間のオンライン診療（Doctor to Doctor）、過疎地域の通院困難者を対象としたオンライン診療（Doctor to Patient with Nurse）などICTを活用した診療に参加、見学する
三重大学	6年次 4ヶ月間のうち 4～5週間	4人	<ul style="list-style-type: none">院内での実習のみならず院外においても健康増進活動などの地域活動に関わる

④ 合同シンポジウム

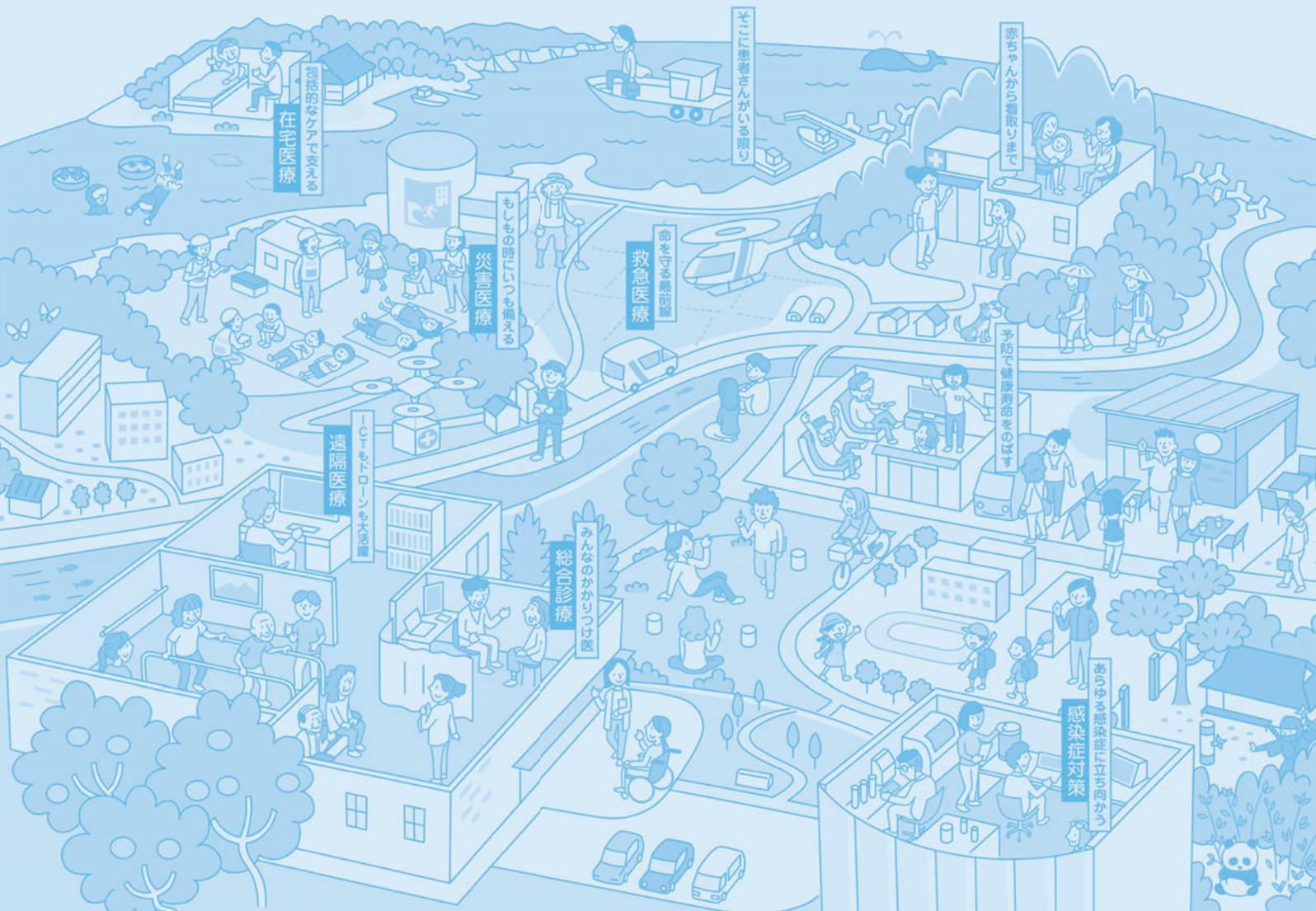
年に1回、3大学合同でオンラインシンポジウムを開催します。ハイブリッド形式での開催とし、現地参加する各大学の学生・教職員による事業成果の発表や、意見交換を通じて交流を深める場とします。また、行政、地域医療機関、高校生などにも広く参加を呼びかけ、本プロジェクトの理解を進めるとともに、地域志向性の高い医学生の入学を促す効果も期待されます。

■ 3大学の教育プログラムの実施概況（令和6年度）

教育プログラム		令和6年度計画 (工程表作成時)	履修・参加状況	学生・参加者の 評価など
体験実習		3大学で計482名の 実習を計画。	概ね計画通り3大学で計470名が 実習をおこなった。	学生の実習に対する満足度や 報告会でのピア評価は高い傾向。
アクティブラーニング コース	地域総合 診療	3大学で計52名の履修を計画。 大学間の学生相互交流、 サイトビジット、学生の学会発表も 計画。	3大学で計43名の学生が履修した。 ■大学間の学生相互交流、学会発表： ・日本プライマリ・ケア連合学会学術大会に3大学で合同参加（学生計19名、 教員計7名）。うち学生3名が演題発表（令和6年6月）。 ・日本プライマリ・ケア連合学会近畿地方会に和歌山県立医科大学の学生5名が参加し、1演題を発表（令和6年11月）。 ■サイトビジット：高知県にて実施。和歌山県立医科大学3名、三重大学3名の教職員が訪問（令和6年5月）。	研究活動や学会発表を通じて、 科学者としての姿勢と視点を養い、 地域医療への理解を深めることが できている。
	医療DX	高知大学で10名の履修を計画。 学生の学会発表も計画。	5名の学生が新たに研究班に登録し、 計6名の学生が履修した。 ■サイトビジット：高知大学での研究 班活動の様子を和歌山県立医科大学、 三重大学の教職員が視察（令和6年5 月）。 ■学会発表：日本疫学会学術総会で 学生1名が演題発表（令和7年2月）。	各学生の研究テーマについて順調に 分析作業を進めることができている。
	災害救急・ 感染症	3大学で計425名の履修を計画。 大学間の学生相互交流、 サイトビジット、学生の学会発表も 計画。	概ね計画通り3大学で計398名の 学生が履修した。 ■大学間の学生相互交流、 サイトビジット： ・高知県総合防災訓練に3大学の 学生計87名（高知67名、和歌山2 名、三重18名）、教職員計10名 （高知4名、和歌山3名、三重3 名）が参加（令和6年5月）。 ・三重大学多数傷病者受入訓練に3 大学の学生計147名（高知8名、 和歌山4名、三重135名）、 連携校教員3名（高知2名、和歌 山1名）が参加（令和6年9月）。 ・金沢大学および能登半島の病院 や施設を学生13名（高知4名、 三重9名）で視察（令和7年3月）。 ■学会発表：日本災害医学総会・ 学術集会上で学生計14名（高知11 名、三重3名）が参加し、うち5 名が演題発表（令和7年3月）。	3大学合同実習後の学生レポート では、実習に対して好意的な意見が 多かった。宿泊を伴う合同実習企 画では、意見交換が活発におこな われ、大学間での交流を深めるの に有効であった。
長期滞在型 クリニカル クラークシップ		3大学で計29名の 実習を計画。	計画を上回る計52名の学生が 実習をおこなった。うち15名が 大学間学生相互派遣として自 県以外の拠点病院で実習をおこ なった。	高知大学の学生による評価では、 本プロジェクトの拠点病院での 実習は、指導体制等に関して評 価が高かった。和歌山県立医 科大学での学生アンケートでは、 事前ミーティングや振り返り、 実習報告会ともに非常に好評 であった。
合同 シンポジウム		150名の参加を計画。	3月8日に和歌山県で開催。計 画を上回る160人（現地86人、 オンライン74人）が参加。	参加者アンケートの結果、各 プログラムの満足度は概ね9割 以上と高評価であった。

II

事業実施・評価の体制



II. 事業実施・評価の体制

II 事業実施・評価の体制

1. 事業実施体制

各大学において、医学部長をリーダーとした実施体制を構築しています。各大学において事業の実務担当者、教務担当者、関連する講座の責任者、地域枠学生等からなる連携校事業推進委員会を年に2回以上開催し、事業の実施計画の策定、進捗状況の確認、プログラム評価、目標達成のベンチマークなどをおこないます。必要に応じて、地域医療人材養成拠点病院の担当者、行政関係者も委員に加えるものとします。事業の円滑な実施のために、実務を担当する教員および事務員を各1名配置します。

事業全体としては、各大学の医学部長、実務担当者からなる事業推進委員会を年1回開催し、大学間の調整の他、年間計画の策定、予算の執行状況の確認をおこないます。

■ 事業推進委員会

敬称略

	氏名	役職
委員長	井上啓史	高知大学医学部長
副委員長	川股知之	和歌山県立医科大学医学部長
	平山雅浩	三重大学医学部長 三重大学大学院医学系研究科小児科学分野教授
委員	瀬尾宏美	高知大学医学部附属病院総合診療部教授
	阿波谷敏英	高知大学医学部家庭医療学講座教授 高知地域医療支援センター副センター長
	矢野有佳里	高知大学医学部特任教授（高知地域医療支援センター）
	上野雅巳	和歌山県立医科大学地域医療支援センター長・教授
	村田顕也	和歌山県立医科大学教育研究開発センター長・教授
	西村有平	三重大学大学院医学系研究科統合薬理学分野教授 医学部教務委員長 医学・看護学教育センター センター長(代理)
	成田正明	三重大学大学院医学系研究科発生再生医学分野教授 医学部入試委員長
	前田博教	高知県立あき総合病院院長
	都築一元	高知県健康政策部医療政策課課長

■ 令和6年度黒潮医療人養成プロジェクト事業推進委員会

日時：令和7年2月13日（木）17：00～18：00

開催方法：オンライン会議（zoom）

■ 高知大学連携校事業推進委員会

敬称略

	氏名	役職
委員長	井上 啓史	高知大学医学部長
委員	矢野 有佳里	高知大学医学部特任教授（高知地域医療支援センター）
	瀬尾 宏美	高知大学医学部附属病院総合診療部教授
	藤田 博一	高知大学医学部附属医学教育創造センター長 教授
	阿波谷 敏英	高知大学医学部家庭医療学講座教授 高知地域医療支援センター副センター長
	宮野 伊知郎	高知大学医学部医療学 / 予防医学・地域医療学分野(公衆衛生学)准教授
	西山 謹吾	高知大学医学部危機管理医療学講座特任教授
	宮内 雅人	高知大学医学部災害・救急医療学講座教授
	山岸 由佳	高知大学医学部臨床感染症学講座教授
	佐田 憲映	高知大学医学部臨床疫学講座特任教授
	的場 俊	高知県立あき総合病院総合内科部長
	川村 昌史	高知県立幡多けんみん病院副院長 内科部長(総括) 研修管理センター長
	藤枝 幹也	高知地域医療支援センター長 高知大学医学部附属病院臨床研究教育・人材育成センター長
	藤本 新平	高知大学医学部医学科長
	関 安孝	高知大学医学部学務委員長
	片山 正彦	高知大学医学部・病院事務部部长
	林 大翔	医学科 4 年生
	小島 佳奈	医学科 3 年生
	近森 大空	医学科 2 年生
油野 颯希	医学科 1 年生	

II. 事業実施・評価の体制

和歌山県立医科大学連携校事業推進委員会

敬称略

	氏 名	役 職
委員長	川 股 知 之	和歌山県立医科大学医学部長
副委員長	上 野 雅 巳	和歌山県立医科大学地域医療支援センター長・教授
	村 田 顕 也	和歌山県立医科大学教育研究開発センター長・教授
委 員	蒸 野 寿 紀	和歌山県立医科大学地域医療支援センター副センター長・講師
	中 村 有 貴	和歌山県立医科大学地域医療支援センター助教
	谷 本 貴 志	和歌山県立医科大学教育研究開発センター准教授
	森 めぐみ	和歌山県立医科大学教育研究開発センター助教
	廣 西 昌 也	和歌山県立医科大学附属病院紀北分院内科教授
	井 上 茂 亮	和歌山県立医科大学救急・集中治療医学講座教授
	田 村 志 宣	和歌山県立医科大学附属病院紀北分院内科准教授
	中 島 強	南和歌山医療センター救命救急科医長・災害医療対策室長
	小 泉 祐 介	和歌山県立医科大学臨床感染制御学講座教授
	貴 志 幸 生	和歌山県立医科大学事務局長
	岩 田 拓 巳	医学部 6 年生
	北 畑 亮 歩	医学部 6 年生
	山 路 千 咲	医学部 6 年生
	三 住 晃 士	医学部 5 年生
	樋 上 和 真	医学部 4 年生
	駿 田 直 俊	橋本市民病院院長
山 本 修 司	国保すさみ病院院長	
中 紀 文	那智勝浦町立温泉病院院長	

■ 三重大学連携校事業推進委員会

敬称略

	氏名	役職
委員長	西村 有平	三重大学大学院医学系研究科統合薬理学分野教授 医学部教務委員長 医学・看護学教育センター長（代理）
委員	平山 雅浩	三重大学医学部長 三重大学大学院医学系研究科小児科学分野教授
	松岡 真理	三重大学大学院医学系研究科小児看護学分野教授 看護学科教務委員長
	問山 裕二	三重大学大学院医学系研究科消化管・小児外科学分野教授 医学部附属病院副院長（教育・地域連携担当）
	鈴木 圭	三重大学医学部附属病院高度救命救急・総合集中治療センター長 教授 感染症内科科長
	山本 憲彦	三重大学医学部附属病院総合診療部長 教授
	岸和田 昌之	三重大学医学部附属病院災害対策推進・教育センター長 准教授
	成田 正明	三重大学大学院医学系研究科発生再生医学分野教授 医学部入試委員長
	吉山 繁幸	三重大学大学院医学系研究科医学医療教育学分野准教授 医学・看護学教育センター准教授
	山下 芳樹	三重大学大学院医学系研究科医学・看護学教育センター助教
	森尾 邦正	三重大学医学部助教（黒潮医療人養成プロジェクト担当）
	森本 茉鈴	学生（6年生：きゅうめい部、災害医療）
	宮崎 洸匠	学生（5年生：きゅうめい部）
	森井 啓太	学生（4年生：災害医療）
	宮園 翔伍	学生（3年生：総合診療）
	宮島 真悟	学生（3年生：総合診療）
	坪田 奈奈歩	学生（3年生：災害医療）
	堀井 学	三重県立志摩病院管理者兼病院長
	藤井 英太郎	名張市立病院院長
鈴木 孝明	介護老人保健施設きなん苑施設長 三重県地域医療研修センター紀南支部長	
山添 尚久	町立南伊勢病院院長	

Ⅱ. 事業実施・評価の体制

2. 事業評価体制

毎年、各大学において自己点検評価をおこない、改善点を事業計画に反映させます。また、連携大学が相互にサイトビジットをおこないピア評価をおこないます。これらの自己評価を取り纏め、事業推進委員会に報告するとともに、外部委員、行政関係者を含む評価委員会の評価を受けるものとします。評価指標として、プログラムの実施状況、履修した学生数、制作した e-learning 教育コンテンツの数等を用います。

■ 事業評価委員会

敬称略

	氏 名	役 職
委員長	家 保 英 隆	高知県理事(保健医療担当)・健康政策部医監
副委員長	野 口 晴 子	早稲田大学政治経済学術院教授
委 員	高 村 昭 輝	富山大学医学部医学教育学講座教授
	倉 本 秋	一般社団法人高知医療再生機構理事長

■ 令和 6 年度事業評価委員会

日 時：令和 7 年 3 月 14 日（金）18:00～19:00

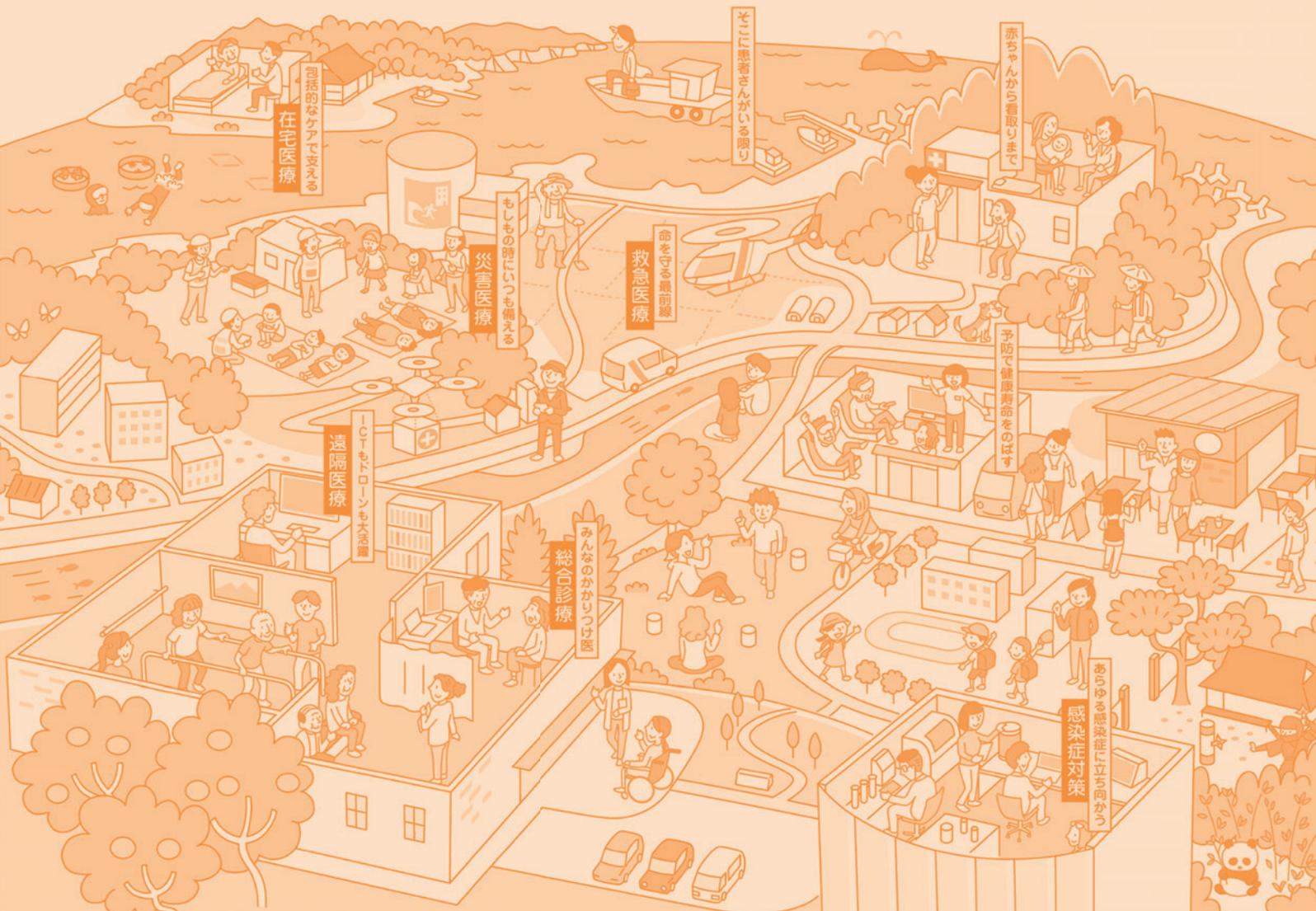
開催方法：オンライン会議（zoom）

〈評価委員からの主なご意見〉

- 多くの参加者が実習や学会発表に参加しており、また各大学でオンラインでの合同振り返りにも参加しているなど、良い取組がおこなわれていると感じている。
- 学生が長期に地域で実習をし、複数の大学で相互派遣がおこなわれている点は素晴らしいと感じた。現在の実施期間が4週間前後であるが、国際的な基準の LIC は最低6週間であるのでその点は留意。地域での滞在期間が長くなっていることは非常に重要であり、この取組がさらに充実していくことを期待。
- e-learning コンテンツの視聴回数や時間についての評価方法を今後検討しておくことが有益と考える。
- 事業採択時の選定委員会からのコメントにあったように、地域枠学生だけでなく、一般枠の学生にも興味を持ってもらうことが大事。参加者数が増えている中で、地域枠以外の学生の参加状況も把握していくことが有効と考えられる。
- 地域志向性の指標は非常に良いと考える。3大学だけでなく、全国規模で調査をおこなえば、各大学の医師養成課程の教育プログラムをより統計的に信頼できる形で評価できるかも知れない。
- 総合診療科や救急科、感染症科に進んだ人数をどのように評価すべきか検討が必要。
- 本事業の成果を短期間で評価するのは難しい。本事業の真の成果は、地域医療への理解が深まった医師を育成することであり、プロセス評価を重視し、長期的な視点で効果を考えるべき。
- 学生の地域医療に対する意識やマインドの変化を測ることもアウトカムの一つ。地域志向性を高める本プロジェクトのような教育的取組は継続的におこなう必要があり、持続可能な体制を構築することが重要。
- 毎年、活動内容が充実し、活発になっていると感じた。
- 情報発信を通じて地域志向性の高い入学者が増えることは県にとっても有益であり、そのようなつながりを広げることが重要である。

III

事業実施状況報告



III 事業実施状況報告

1. 教育プログラム

① 高知大学

人事および運営体制	
令和6年 4月	本プロジェクトを担当する特任教授、事務補佐員を継続雇用
令和6年 6月	第1回連携校事業推進委員会において、事業の進捗状況を確認
令和6年 12月	第2回連携校事業推進委員会において、事業の進捗状況と来年度の準備状況を確認
教育プログラム進捗状況	
体験実習	
令和6年 9月 10～12日	臨床体験実習Ⅱ(前半)幡多けんみん病院で2年生11名が実習
令和6年 9月 17～19日	臨床体験実習Ⅱ(後半)あき総合病院で2年生7名が実習
令和7年 2月 5～7日	臨床体験実習Ⅰ(前半)あき総合病院で1年生6名が実習
令和7年 2月 12～14日	臨床体験実習Ⅰ(後半)幡多けんみん病院で1年生14名が実習 大井田病院で4年生2名、四万十市民病院で4年生2名が実習(同日程)
令和7年 2月 18～20日	臨床体験実習Ⅲ(前半)幡多けんみん病院で3年生10名が実習
令和7年 2月 25～27日	臨床体験実習Ⅲ(後半)あき総合病院で3年生7名が実習
令和7年 2月 17～19日	弘前大学から教職員5名のサイトビジットを受入 臨床体験実習Ⅰ報告会 及び幡多けんみん病院での臨床体験実習Ⅲを視察 サイトビジット会議を実施
アクティブラーニングコース	
令和6年 4月	履修学生確定、各研究班授業開始
〈地域総合診療コース〉 2年生1名登録 3年生4名継続 それぞれのテーマに沿った研究を進めている	
令和6年 6月	第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会(浜松市)に学生5名参加、 うち1名ポスター発表
令和6年 5月 20、21日	和歌山県立医科大学、三重大学の教職員計6名のサイトビジット受入 地域総合診療・臨床疫学研究班の活動見学、サイトビジット会議を実施 (和医大3名、三重大3名、高知大9名の教職員が参加)
令和6年 11月 16、17日	日本プライマリ・ケア連合学会四国ブロック支部地方会(松山市)に3年生 4名が参加
〈医療DXコース〉 2年生5名登録 3年生1名継続 医療介護連携システム(高知家@ライン)を用いた実習、レセプトデータ等を用いた分析に取り組んでいる	
令和6年 5月 20、21日	和歌山県立医科大学、三重大学の教職員計6名のサイトビジットを受入
令和6年 5月 20、21日	医療DX・データヘルス研究班の活動見学、サイトビジット会議に参加
令和7年 2月 12～14日	日本疫学会学術総会(高知市)で学生1名が演題発表
〈災害救急・感染症コース〉 2年生6名登録 3年生6名継続	
令和6年 5月 25、26日	高知県にて3大学合同実習実施 消防防災航空センター見学、香南市での 高知県総合防災訓練に参加(和歌山県立医科大学2名、三重大18名、 高知大学医学科7名・看護学科60名が参加)
令和6年 9月 28、29日	三重大学防災訓練多数傷病者受入訓練・病院防災訓練施設見学 高知大学から10名(教員2名・学生8名)が参加
令和7年 3月 6～8日	日本災害医学会総会・学術集会(愛知)に学生11名が参加し、うち3名が 発表
令和7年 3月 13～15日	金沢大学、能登半島の病院及び施設の視察に学生4名、教員1名が参加

長期滞在型クリニカルクラークシップ (LIC)

令和6年4月

学生県外派遣について学務委員会で審議、教授会で報告

令和6年4～7月

幡多けんみん病院、あき総合病院の黒潮医療人養成コースで高知大生各3名が実習
幡多けんみん病院で和医大生2名、あき総合病院で和医大生1名、三重大生1名を実習受入
県外派遣として、高知大生5名を地域医療人材養成拠点病院に派遣

三重県：紀南病院(1名)

和歌山県：那智勝浦町立温泉病院(1名)、紀北分院(1名)、橋本市民病院(2名)

令和6年5月20、21日

和歌山県立医科大学、三重大学の教職員計6名のサイトビジットを受入 あき総合病院を視察し、実習中の三重大生、本学学生及び指導医らと意見交換 サイトビジット会議を実施

その他

令和7年1月 第3回全国フォーラムに参加し(教員2名、事務職員1名)、事業報告

令和7年3月 第3回合同シンポジウム(和歌山県立医科大学主催)に参加(現地参加：教職員5名、学生4名)

自己評価

各教育プログラムとも概ね計画通りに進捗している。

体験実習は、学内での実習と比較して学生の評価が高く、有意義な体験が得られていると考えている。

アクティブラーニングコースでは、各コースとも順調に活動を進めており、3大学での交流事業も積極的におこなっている。特に、防災訓練等の合同実習は学生の満足度も高く、主体的な学びを促進する貴重な機会となっていると考えられる。

長期滞在型クリニカルクラークシップでは、学生や指導者からの報告を通じて、充実した診療参加型実習がおこなわれていることが確認されており、本プロジェクトの特徴である3大学の連携での学生相互派遣の効果は大きいと考えられる。オンラインでの合同振り返りを取り入れることで、学生の学びだけでなく運営側へのフィードバックも得られ、継続的な改良をおこなうきっかけとなっている。

今後も、プログラム内容のさらなる充実を図るとともに、教育の質の向上に努めたい。

連携校事業推進委員会



医学部長をはじめ、実務担当者、関連講座の責任者、地域医療人材養成拠点病院の担当者、地域枠学生などが参加する連携校事業推進委員会を開催(第2回・令和6年12月)

III. 事業実施状況報告

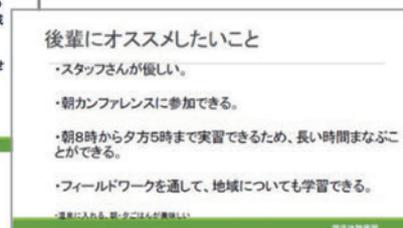
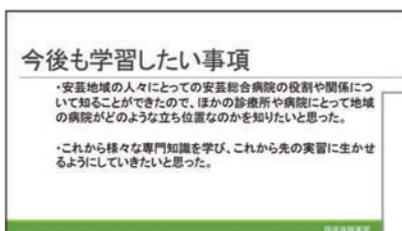
■ 体験実習



体験実習（2年次）の様子：（左）あき総合病院、（右）幡多けんみん病院（令和6年9月）



幡多地域でのフィールドワークにおける学生のフォトボイス投稿（令和6年9月）



体験実習報告会（1年次）：
あき総合病院で実習したグループの発表スライド（令和7年2月）

■ アクティブラーニングコース

● 地域総合診療コース



（左）薬局での調査、（右）日本プライマリ・ケア連合学会学術大会でのポスター発表（令和6年6月）

● 医療DXコース



（左）連携校の教職員が研究活動を視察（令和6年5月）、（右）日本疫学会学術総会でのポスター発表（令和7年2月）

- 災害救急・感染症コース



(左) 高知県総合防災訓練に3大学合同で参加(令和6年5月)、(右) 能登半島地震関連施設を視察(令和7年3月)

- 長期滞在型臨床クラークシップ (LIC)

- 高知県内の LIC の様子 (令和6年4～7月)



幡多けんみん病院と連携の大井田病院での実習の様子：(左) 訪問診療実習、(中・右) 沖の島での診療実習



(左) 幡多けんみん病院と連携の大月病院での実習中、病院と介護施設、大月町との意見共有会に参加
(中) あき総合病院での訪問診療に高知大生と和医大生が同行
(右) あき総合病院での朝のカンファレンスに高知大生と三重大生が参加

- 県外 LIC の様子 (令和6年4～7月)



(左) 三重県の紀南病院での実習期間中、連携のくまのなる在宅診療所で高知大生が実習
(中) 和歌山県の橋本市民病院で実習中の和医大生と高知大生
(右) 和歌山県的那智勝浦町立温泉病院での実習中、同町の消防本部で実習をおこなう高知大生

Ⅲ. 事業実施状況報告

② 和歌山県立医科大学

人事および運営体制

令和6年4月	前年度と同様の体制で令和6年度事業を開始
令和6年4月	担当事務補助員1名を前年度に続き継続パート雇用
令和6年6月	令和6年度第1回連携校事業推進委員会において、事業の進捗状況を確認
令和6年12月	令和6年度第2回連携校事業推進委員会において、事業の進捗状況と来年度の準備状況を確認

教育プログラム進捗状況

体験実習

令和6年10月	黒潮体験実習(病棟実習Ⅰ)・2日間実施(2年生)2病院 ^{※1} での実習：3名参加
令和7年2月	黒潮体験実習(病棟実習Ⅱ)・2日間実施(3年生)2病院 ^{※1} での実習：4名参加

※1 橋本市民病院・那智勝浦町立温泉病院

アクティブラーニングコース

〈地域総合診療コース〉

令和6年4月	履修学生確定(1年生：4名、2年生：4名(継続)) 以後合計7回、学生・教員ミーティングを実施
令和6年7～8月	1年生：早期体験実習・5日間実施(4病院 ^{※2} における実習：4名参加) 2年生：地域総合診療・5日間実施(4病院 ^{※2} における実習：4名参加)
※2 橋本市民病院・国保すさみ病院・那智勝浦町立温泉病院・紀北分院	
令和6年11月	日本プライマリ・ケア連合学会第37回近畿地方会 2年生：4名、1年生：1名・教員：2名参加、2年生が一般演題発表

〈サイトビジット〉

令和6年5月	高知大学アクティブラーニングサイトビジット教員：3名参加
--------	------------------------------

〈災害・救急(感染症)コース〉

令和6年5月	高知：防災訓練体験研修(学生：2名、教員：3名参加)
令和6年6月	黒潮災害救急講義(3年生)
令和6年7月	黒潮災害救急実習・3日間実施(3年生)南和歌山医療センター：5名参加
令和6年9月	地域マインド教育Ⅰ～Ⅳで黒潮災害救急の実習成果について実習参加学生が発表
令和6年9月	三重：防災訓練体験研修(1年生：4名・教員：1名参加)
令和6年11月	黒潮感染症講義(4年生)

長期滞在型クリニカルクラークシップ(LIC)

令和6年4月8～26日	県内：5名参加【国保すさみ病院・那智勝浦町立温泉病院・紀北分院】 県外：1名【紀南病院(三重)】
令和6年5月13～31日	県内：7名【橋本市民病院・国保すさみ病院・那智勝浦町立温泉病院・紀北分院】 県外：2名【幡多けんみん病院(高知)・南伊勢病院(三重)】
令和6年6月3～21日	県内：7名【橋本市民病院・国保すさみ病院・那智勝浦町立温泉病院・紀北分院】 県外：3名【幡多けんみん病院・紀南病院・南伊勢病院】
令和6年6月24～7月12日	県内：5名【橋本市民病院・那智勝浦町立温泉病院・国保すさみ病院】 県外：1名【あき総合病院(高知)】
令和6年6月3～7月22日	高知大学より選択制臨床実習6年生(4名)を地域医療人材養成拠点病院【橋本市民病院・那智勝浦町立温泉病院・紀北分院】で受け入れ

・LIC期間中、振り返り・実習報告会を毎週木曜日に開催(一部高知・三重大学の学生・教員も参加)



令和7年2月7日	LIC 学生県外派遣の説明会を開催
令和7年2月10～28日	県内：5名参加【橋本市民病院・国保すさみ病院・紀北分院】 県外：1名【三重県立志摩病院】
令和7年3月3～21日	県内：2名【橋本市民病院】 県外：1名【三重県立志摩病院】
・LIC 期間中、振り返り・実習報告会を毎週火曜日に開催（一部病院は木曜日に対応）	
その他	
令和6年6月	日本プライマリ・ケア連合学会学術大会（浜松） 2年生：4名・教員：1名参加
令和6年7月	わっしょ医!!北山村 1年生：3名、5年生：1名、6年生：1名参加、教員：1名・事務員：3名引率
令和7年1月	全国フォーラム（東京 一橋講堂） 教員：2名参加
令和7年3月	第3回合同シンポジウム開催

自己評価

各プログラムとも概ね計画通りに進捗している。長期滞在型クリニカルクラークシップでは、本年度も学生事前アンケートを実施し、実習前に各地域医療人材養成拠点病院の実習コーディネータと学生が事前ミーティングすることで、各学生の希望内容を取り入れた実習を提供できた。週1回の振り返り・実習報告会は今年度も継続し、各施設および各学生の実習状況を確認、共有した。実習後の学生アンケートでは、事前ミーティング、振り返り・実習報告会とも非常に好評であり、満足度の高い実習を円滑に進めるため、今後も継続予定である。

アクティブラーニングコース（地域総合診療コース）は実施体制が整ってきており、概ね計画通りに実施できた。地域医療マインド教育Ⅰ～Ⅳで行った実習報告会では、前年とは異なる視点で実習が行われ、新たな知見を得られたことが本コース履修学生の発表で報告され、本コースを通じた学生の成長を実感できた。

災害・救急コースは県内病院での実習を予定通り実施した。

体験実習については参加学生が目標よりも少なかったため、学生が興味を持てるようなプログラムへの改善、および、リクルートの方法について、さらに検討する必要がある。



LIC 実習報告（国保すさみ病院）



LIC 実習報告（幡多けんみん病院）

Ⅲ. 事業実施状況報告



日本プライマリ・ケア連合学会（浜松）



日本プライマリ・ケア連合学会近畿地方会



紀北分院 LIC ポケットエコー実習（令和6年4月）



紀南病院 LIC 訪問診療同行（令和6年6月）



わっしょ医!!北山村
（令和6年7月）

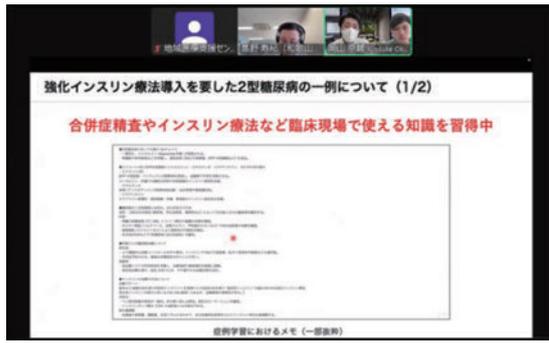
◀ 村民と交流・問診体験

事前のCPR、AED練習 ▶



三重大学主催の防災訓練黒潮体験研修に参加、
三重大学・高知大学の学生と教員の交流勉強会の様子（令和6年9月）

■ LIC 振り返り・実習報告会実習



三重県立志摩病院



橋本市民病院・三重県立志摩病院



三重県立志摩病院との事前ミーティング

■ 合同シンポジウム開催 (令和7年3月7日～8日)



Ⅲ 事業実施状況報告



III. 事業実施状況報告

3 三重大学

人事および運営体制

令和6年5月 令和6年度第1回連携校事業推進委員会において、事業の進捗状況確認
令和6年8月 令和6年度第2回連携校事業推進委員会において、事業の進捗状況確認
令和6年11月 令和6年度第3回連携校事業推進委員会において、事業の進捗状況確認

教育プログラム進捗状況

体験実習

令和6年5月～6月 「医療と社会」地域基盤型保健医療教育実習 事前準備（1・2年生）
令和6年8月～11月 「医療と社会」地域基盤型保健医療教育実習
（1年生、市町担当者や住民様等にインタビュー）
令和6年7月～12月 「医療と社会」地域地盤型保健医療教育実習（2年生、地域貢献活動）
令和6年10月 地域基盤型保健医療教育実習終了後の振り返り（1年生）
令和7年2月 地域基盤型保健医療教育実習報告会（1・2年生）

アクティブラーニングコース

令和6年5月20日、21日
教職員3名が高知県を訪問、施設見学、高知大学での地域総合診療（アクティブラーニングコース）
サイトビジット、アクティブラーニングコースの見学を行った。又、5/21にサイトビジット会議を行った。

令和6年5月25日、26日
3大学合同実習：25日は、消防防災航空センター見学・講義受講、感染防護衣の着脱訓練、iPadに
よる津波体験を行った。26日は、高知県総合防災訓練に傷病者役として参加した（三重大学：医学科
学生18名、教員3名）。

令和6年6月
第15回日本プライマリ・ケア連合学会大会において、活発な意見交換を行った（三重大学から学生
10名、教員4名が参加）。また、地域総合診療コース学生2名が口頭発表を行った。

令和6年7月
研究室研修開始（3年生）災害対策推進・教育センターにおいて2名（新医学専攻コースを含む）を受け
入れた。

令和6年9月
研究室研修開始（3年生）総合診療部において地域総合診療コースでは5名（新医学専攻コースを含
む）を受け入れた。

令和6年9月28日、29日
3大学合同実習：28日は、三重大学附属病院の大規模防災訓練に学生147名（三重大135名：医学科
5年生124名、3年生1名、看護学科1年生4名、2年生4名、3年生1名、4年生1名、高知大：学
生8名、和歌山医大：学生4名）が合同実習を行った。多数傷病者受入れ訓練（医療者補助役、患者搬
送役、患者役）、エアーストレッチャー使用の階段引き上げ訓練、AR機器を活用した浸水体験を行った。
三重大学、高知大学、和歌山医大の代表の教員と学生が金沢大学の岡島教授を囲んで、座談会を行った
（学生3名、教員5名）。28日夜は、三重大学、高知大学、和歌山医大の学生（合計約40名）が高田会
館（津市）にて、三重県の地域医療や災害時の感染の講義、および三重大学医学生による応急処置（BLS、
止血、三角巾固定）の実働演習を行った。29日は、病院防災施設として食料・医薬品備蓄、インフラ設
備、感染症危機管理センターの見学を行った。

令和6年10月25日
中部国際空港検疫所見学実習（3年生12名、教員1名）

令和6年11月15日
南海トラフ地震、津波被災時における救護所設営、トリアージ訓練、搬送訓練を行った（医学科1名、
看護学科18名）。

令和6年11月19日
病棟火災避難訓練、消火器および消火栓を用いた消火実習を行った（医学科4名）。

令和6年12月8日
鈴鹿サーキット メディカルセンター視察（学生4名、教職員2名）

令和7年1月20日

地域防災論の講義(対象：約160名の三重大学生)において、医学科生3名がトリアージタグの使用
方法や応急手当(止血、三角巾、シーツ搬送の実務含む)を担当して講義を行った。

令和7年2月15日

県民公開講座の三重大学・防災アカデミー(対象：約50名の一般の三重県民)において、医学科2名(3
年生)が応急対応(止血、三角巾、シーツ搬送の実技含む)を担当して講義を行った。

令和7年3月6日～8日

2大学合同実習(三重大学、高知大学)：第30回日本災害医学会総会・学術集会(愛知、3/6～3/8)
への参加し、2大学(三重大学、高知大学)の学生14名にて相互発表会(口演発表ラウンド、ポスター
ラウンド)を行った。全員懇親会にも参加して、意見交流会を行った。(三重大学生3名：3年生2名、
1年生1名、発表2名)。

令和7年3月13日～15日

2大学合同実習(三重大学、高知大学)金沢大学、能登半島の医療施設を訪問し(公立能登総合病院、
市立輪島病院、ごちゃまるクリニック)、実際に能登半島地震にて対応した現地の医療スタッフの講義
を聞き、その後に座談会を行った。さらに、被災地(輪島港周辺、朝市通りの火災後など)を視察した(三
重大学生9名：5年1名、3年8名)。

令和7年3月

新医学専攻コース総合診療部において地域総合診療コース修了(5名)

長期滞在型クリニカルクラークシップ (LIC)

令和6年5月7日～6月7日 三重大学6年生1名が地域拠点病院(高知県立あき総合病院)で実習(1か月)

そ の 他

令和7年1月 第3回全国フォーラムに出席(教員1名)

令和7年3月 第3回合同シンポジウム(主催：和歌山県立医科大学)参加

(現地参加：教員4名、学生4名・オンライン参加：教職員6名、学生1名)

自己評価

連携校事業推進委員会における活発な議論とともに、体験実習、アクティブラーニングコース、長期
滞在型クリニカルクラークシップは計画に沿って着実に進捗している。

アクティブラーニングコースにおける自己評価を以下に列記する。

1. 指導医学生の自己学習および教育効果

医学生が事前学習を行い、医学生や一般の方に対して講義・実演を実施した。その結果、指導する
医学生自身が多面的な自己学習の効果を得るとともに、わかりやすい伝え方を学ぶ貴重な機会となっ
た。また、受講した医学生も同年代の医学生から講義を受けることで、熱心に聴講し、積極的な学習
姿勢が認められた。

2. 宿泊を伴う交流企画

宿泊を伴う企画において、食事をしながらの交流会を企画した結果、意見交換が活発に行われた。
これにより、多大学間でのコミュニケーションの向上が確認され、交流の深化に成果を挙げた。

3. 座談会の実施

学生と教員が自由に意見を述べ合える座談会形式を採用した。この取り組みにより、学年や経験の
異なる参加者から新たな視点を取り入れた意見が多く生まれ、有意義なディスカッションが展開された。

4. 専門家による講義と実習の連携

救命士や警察官などの専門家による講義と、その後の実習を組み合わせる形式を採用したことで、
より効果的な学習成果が得られた。このアプローチは、実習の質を高める重要な要因となった。

Ⅲ. 事業実施状況報告

体験実習

■ 三重大学での体験実習の様子（令和6年8月）



2年生の地域貢献活動として保育園での手洗い教室

■ 地域調査の様子（令和6年9月）



1年生の地域女性会でのインタビュー調査

アクティブラーニングコース(地域総合診療)サイトビジット（令和6年5月）



高知大学でのサイトビジット会議



地域総合診療・臨床疫学研究班 視察

高知県立あき総合病院 長期滞在型臨床実習(LIC)（令和6年5月）



学生ヒアリングの様子



3大学合同実習：消防防災航空センター見学、高知県総合防災訓練（令和6年5月）



防災ヘリの前にて記念撮影



三重大生によるエアーストレッチャー実演指導



感染防護衣の着脱訓練
(大学別のハンドサイン)

3大学合同実習：三重大学防災訓練・病院防災設備見学（令和6年9月）



講演 金沢大学 岡島正樹先生との集合写真



I PAD を使用した AR 浸水体験（体験中）



医療者補助役（トリアージタグ記入）



搬送伝令役（CT 室へ搬送）



座談会（3大学代表の学生と教員、岡島教授、司会）



ミニレクチャー（三重県の地域医療：山本教授）



ミニレクチャー（災害時の感染：鈴木教授）



高田会館での講演聴講および実習（集合写真）



医学生による応急手当実習講義（BLS）



備蓄飲料・食料品見学（三重大学病院）

Ⅲ. 事業実施状況報告

中部国際空港検疫所見学実習（令和6年10月）



検疫医療専門職からのレクチャー



中部国際空港施設見学

南海トラフ地震、津波被災時における救護所設営・トリアージ、搬送訓練（令和6年11月）



医療者補助役(右足骨折への固定)

病棟火災避難訓練、消火器および消火栓を用いた消火実習（令和6年11月）



消火訓練(消火栓からの放水による消火)

鈴鹿サーキット メディカルセンター視察（令和6年12月）



三重大学地域防災論(全学)での講義と実演指導（令和7年1月）



三重大学生(全学)への止血講義



三重大学生(全学)への固定講義



三重大学・アカデミー（県民公開講座）での実演指導（令和7年1月）



三重県民に対する三角巾固定指導

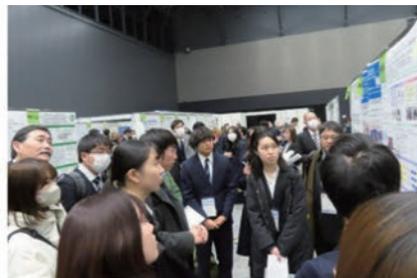


小学生と母親に対する搬送実技指導

2 大学合同実習（三重大学、高知大学）：第30回日本災害医学会での発表・意見交換（令和7年3月）



口演発表ラウンド



ポスターラウンドでの質疑応答



集合写真(三重大学生、高知大学生)

2 大学合同実習（三重大学、高知大学）：金沢大学・能登半島の施設訪問、被災地視察（令和7年3月）



金沢大学での講義、座談会、トリアージ施設視察



公立能登総合病院での講義、支援隊出動時の机上訓練



ごちゃまるクリニック訪問



市立輪島病院での講義、座談会



被災地視察（輪島市内）

2. 大学間連携事業

① e-learning

黒潮医療人養成プロジェクトでは、教育プログラムの学習の補助として、3大学共同でe-learningコンテンツを制作しています。「総合診療」、「災害救急・感染症」のカテゴリーに加え、令和6年度から新たに「実践臨床」を追加しました。「実践臨床」では、長期滞在型クリニカルクラークシップに参加する6年生などの高学年を対象に、より臨床現場に即した実践的なコンテンツを提供しています。また、主な対象が分かりやすいように、「低学年」「高学年・研修医」などのラベルを付与しています。

黒潮医療人養成プロジェクトウェブサイトでのe-learningのページ

The screenshot shows the 'e-ラーニング' (e-learning) page of the project website. The page is organized into several sections:

- Header:** 'e-ラーニング' and a navigation menu with 'ホーム/e-ラーニング'.
- Introduction:** A message stating that the content is for project students and requires an ID and password to view.
- Category: 総合診療 (General Practice)**
 - BPSモデルとインテグラル理論:** 32分 / 2024年12月26日. 全学年.
 - 研究の基本骨格を組み立てる:** 21分38秒 / 2024年04月03日. 全学年.
 - ICTを活用した多職種協働～高知の取り組み概要～:** 18分33秒 / 2024年03月28日. 全学年.
- Category: 災害救急・感染症 (Disaster Emergency & Infection Control)**
 - 食中毒を起こす病原体:** 13分28秒 / 2024年12月26日. 全学年.
 - 災害時のストレス:** 48分15秒 / 2024年06月12日. 全学年.
 - 避難所における災害関連死:** 35分31秒 / 2024年06月12日. 全学年.
- Category: 実践臨床 (Practical Clinical)**
 - 地域で消化管癌を見つけたら②食道癌・胃癌編:** 18分 / 2024年09月23日. 高学年・研修医.
 - 地域で消化管癌を見つけたら①総論・大腸癌編:** 13分40秒 / 2024年09月23日. 高学年・研修医.
 - 気管挿管は準備で決まる:** 27分15秒 / 2024年09月04日. 高学年・研修医.

■ 公開範囲

制作したコンテンツは自大学の LMS (3 大学とも moodle を使用) を通じて履修学生に提供しています。高知大学がコンテンツの管理をおこない、連携校での利用が許諾されたコンテンツについては黒潮医療人養成プロジェクトのウェブサイト上でも公開しています。本ウェブサイト上のコンテンツは ID、パスワードを付与された連携校の履修学生、関係者 (研修医、一般学生、指導医等) も視聴可能です。また、ポストコロナ GP e-learning システムの活用も一部開始しており、今後さらに幅広い活用が期待されます。

プラットフォーム	公開範囲			
	履修学生 (自大学)	履修学生 (連携校)	学生 (他の拠点)	関係者 (研修医、一般学生、 指導医、等)
moodle	○			
黒潮医療人養成プロジェクト ウェブサイト	○	○		○
ポストコロナ GP e-learning システム	○	設定により	設定により	設定により

■ コンテンツ制作状況と利用状況

令和 5 年度以降、毎年 10 コンテンツ以上の制作を目標とし、地域ニーズに対応できる多様な内容の提供を目指しています。令和 6 年度は 3 大学で計 25 コンテンツを制作し、これまでに制作したコンテンツの総数は 42 となっています。

プロジェクトのウェブサイトで開催している 37 コンテンツについては、利用状況を収集しており、コンテンツの総視聴回数は 1,225 回、総視聴時間は 142 時間 35 分となっています (令和 7 年 3 月 14 日時点)。

今後も、より充実したコンテンツを提供し、学生の学習を支援できるよう取り組むとともに、より多くの学生や関係者に活用してもらえよう、周知や利便性の向上にも努めていきます。

III. 事業実施状況報告

e-learning コンテンツ一覧

カテゴリ	作成大学	コンテンツ名	対象学年	作成年度	作成数
総合診療	高知大学	地域医療と臨床研究	低学年	R4	8
		地域の歩き方	全学年	R5	
		ICTを活用した多職種協働～高知の取り組み概要～	全学年	R5	
		研究の基本骨格を組み立てる	全学年	R6	
	和歌山県立医科大学	総合診療ことはじめ	全学年	R4	
		BPSモデルとインテグラル理論	全学年	R6	
	三重大学	Pubmedを用いた文献検索	全学年	R4	
地域アセスメント		低学年	R5		
災害救急・感染症	高知大学	高知県の南海トラフ地震対策	全学年	R5	21
		津波肺	全学年	R5	
		避難所での感染対策(呼吸器感染症対策編)	全学年	R5	
		DMATと災害時医療対応の原則	全学年	R6	
		トリアージと治療	全学年	R6	
		東日本大震災から考えた医療機関の南海地震対応	全学年	R6	
		高知県の南海トラフ地震対策～キーワードは総力戦～	全学年	R6	
		高知県の災害医療体制と高知大学附属病院	全学年	R6	
		避難所における災害関連死	全学年	R6	
	災害時のストレス	全学年	R6		
	和歌山県立医科大学	避難所での支援活動の中での感染防御の注意点 ～和歌山県 ver.～	全学年	R4	
		ダニ媒介感染症・結核の基礎知識	全学年	R5	
		災害医療	低学年	R4	
		食中毒を起こす病原体	全学年	R6	
	三重大学	外傷の応急処置	全学年	R5	
		担架の使用法	全学年	R5	
		籠城時病院避難二次トリアージ	全学年	R5	
		トリアージタグの使用法	全学年	R5	
		病院避難二次トリアージ机上訓練【実践編】	全学年	R6	
		多数傷病者受け入れ訓練【エリア訓練】	全学年	R6	
		多数傷病者受け入れ訓練【本部訓練】	全学年	R6	
実践臨床	高知大学	せん妄	高学年 + 研修医	R5	13
		救急当直一般、ショック	高学年 + 研修医	R6	
		輸液、IVHの選択	高学年	R6	
		気管挿管は準備で決まる	高学年 + 研修医	R6	
		胸痛	高学年 + 研修医	R6	
		発熱	高学年	R6	
		モニター心電図の見方	高学年 + 研修医	R6	
		脳血管障害	高学年 + 研修医	R6	
		「DNAR、急変時 Full」って変ですか？ ～終末期の方針決定～	高学年 + 研修医	R6	
		処置時の鎮静・鎮痛のコツ教えます。	高学年 + 研修医	R6	
	高齢患者のマネジメント	高学年 + 研修医	R6		
	和歌山県立医科大学	地域で消化管癌を見つけたら①総論・大腸癌編	高学年 + 研修医	R6	
		地域で消化管癌を見つけたら②食道癌・胃癌編	高学年 + 研修医	R6	

令和7年3月14日時点で計42コンテンツ(うち令和6年度25コンテンツ)を制作しています。

2 合同シンポジウム

第3回 合同シンポジウム

概要と目的	3大学の教職員、学生、地域医療人材養成拠点病院関係者、行政が本プロジェクトの意義を確認、相互に交流するとともに、広く地域に対し情報発信する
日 時	令和7年3月8日(土) 9:00～13:00
場 所	ダイワロイネットホテル和歌山 4階 ブリエ (Zoomによるハイブリッド開催)
主 催	和歌山県立医科大学
後 援	和歌山県、一般社団法人和歌山県医師会、公益社団法人和歌山県病院協会、朝日新聞和歌山総局、毎日新聞和歌山支局、読売新聞和歌山支局、産経新聞社、共同通信社和歌山支局、時事通信社和歌山支局、日本経済新聞社和歌山支局、NHK和歌山放送局、和歌山放送、テレビ和歌山、紀伊民報、わかやま新報
参 加 者	160人(現地86人、オンライン74人)
次 第	
9:00	開会・挨拶 和歌山県立医科大学 理事長 中尾 直之
9:05	祝 辞 和歌山県知事 岸本 周平
9:10	特別講演①「南海トラフ巨大地震の地震・津波想定はどのように理解すべきか」 講師/穴倉 正展(国立研究開発法人産業技術総合研究所 地質調査総合センター 連携推進室 国内連携グループ長)
10:15	休 憩
10:20	特別講演②「世界の大規模災害の現場から」 講師/國井 修(公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金(GHIT Fund)CEO・専務理事)
11:20	休 憩
11:30	取り組み事例報告 ①「医学部生の防災意識に関する調査研究について」 和歌山県立医科大学 医学部生 ②「ドローンと配送ロボットを活用した医薬品配送の実証実験について」 和歌山県立医科大学 地域医療支援センター 副センター長 蒸野 寿紀 ③「地域医療教育でのPOCUS(Point of care 超音波)の活用について」 紀美野町国民健康保険国吉・長谷毛原診療所 所長 多田 明良 ④「和歌山県における遠隔外来の利活用について」 和歌山県立医科大学 医学部生 ⑤「北山村地域医療研修センターの設立と黒潮医療人養成プロジェクトとの連携の可能性について」 国保北山村診療所 所長 内川 宗大 ⑥「県外地域医療人材養成拠点病院での選択制臨床実習の感想」 3大学 医学部生・研修医
12:55	次回開催地挨拶 高知大学
13:00	閉会挨拶 和歌山県立医科大学 医学部長 川股 知之

Ⅲ. 事業実施状況報告

参加者内訳

	計	三重	高知	和歌山	その他(不明含む)
医 学 生	71(49)	5(1)	52(48)	14(0)	0(0)
大 学 関 係 者	46(16)	10(6)	8(3)	25(4)	6(3)
高 校 生	4(1)			3(0)	2(1)
地 域 医 療 機 関	15(3)			10(2)	6(1)
県 庁 職 員	9(0)			9(0)	0(0)
その他(不明含む)	15(5)			1(0)	19(5)
計	160(74)	15(7)	60(51)	62(6)	33(10)

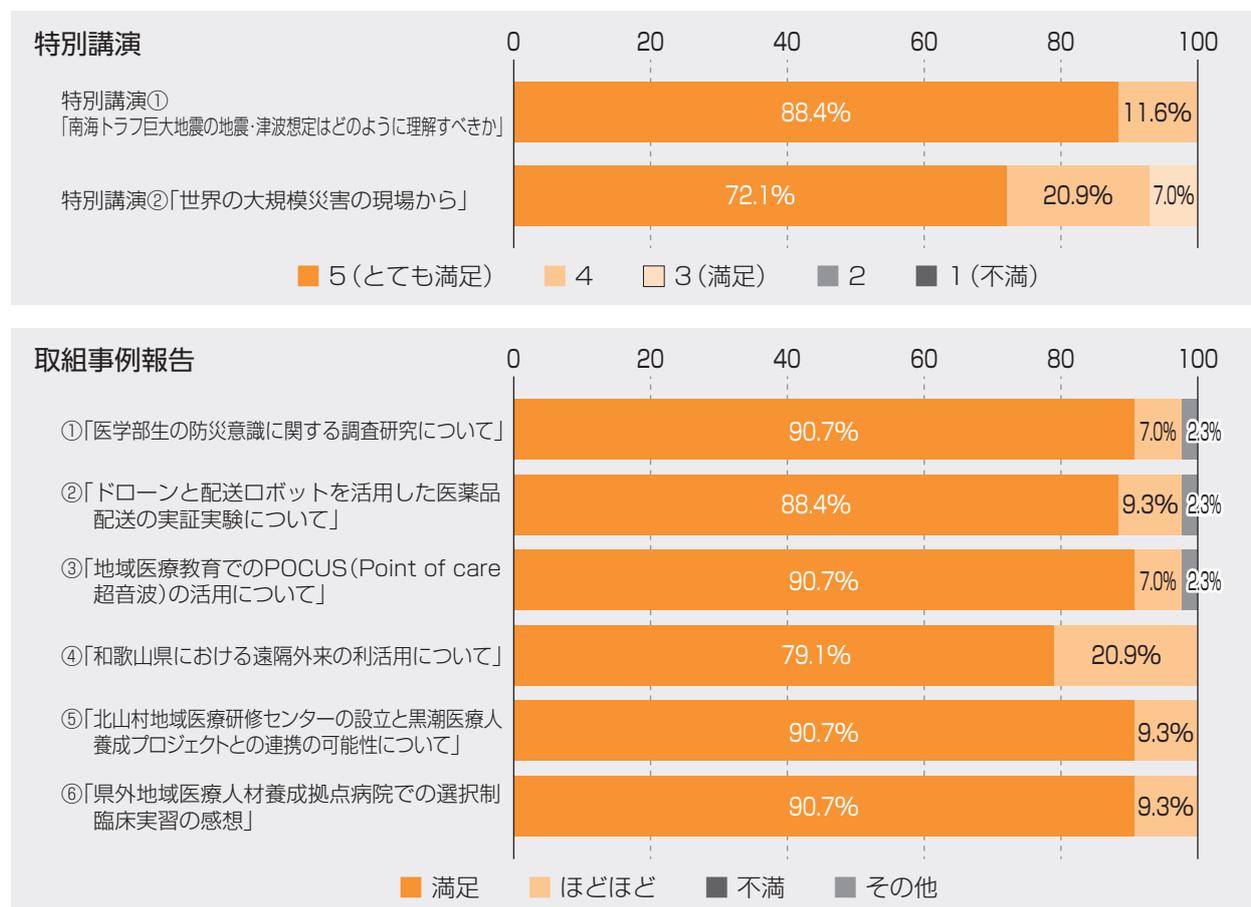
注 ()内はオンライン参加者数

参加者アンケート

回答者 43 人

(医学生 14、医療系学生 1、大学関係者 17、地域医療機関 6、県庁職員 1、市町村職員 1、その他 3)

【各プログラム満足度】



【アンケートより・その他について】

●取組事例報告：ドローン～実証実験について

・試験が延期されたとお話があったように、和歌山県は大変風が普段から強い地域だと思いますので、飛ばなくなる風速等の基準とその場合の代替方法の検討の有無について知りたかったです。

●取組事例報告：地域医療教育での POCUS の活用～

・まだ、臨床の授業が始まったばかりですが、エコーを習得することの有用性を感じており、エコーを学べる場所を探しておりました。今回、K-PICS の存在を知ることができ、大変うれしいです。

【シンポジウムの感想についてまとめ】

- 黒潮医療人養成プロジェクトとして、3大学の連携が形になってきた実感がありました。
- 地域医療について大変参考になりました。
- 文部科学省の補助金で行っているとは思えないくらい大きなシンポジウムで驚きました。多くの首長に参加いただくなど運営を行うには大変な苦労があったかと存じます。また教育に関する職員でありますので、学生の発表から非常に多くのことを学んでいることを学びましたし、地域の実習では病院内だけでなく、宿泊施設や地域交通など多くの hidden curriculum が学生に大きな影響を与えていると感じました。補助事業が終了しても是非とも実習並びにその報告のシンポジウムは継続してほしいと感じました。
- 災害など平時とは異なる状況で安定した医療提供のために何ができるのか？日頃の実践を研究として取り扱うことの重要性など学生にとって刺激を受けた様子でした。
- 災害、公衆衛生、地域医療の課題や更なる展開は国民全体で考えていかなければならない事項だと思います。本プロジェクトからぜひ tips を発信。
- ドローンの実証実験は興味深く感じました。海沿いの集落も港が破壊され孤立する可能性が高いと思います。海上を飛行させる実験もご検討ください。

■ 第3回 合同シンポジウム 当日の様子



Ⅲ. 事業実施状況報告



■ 第3回 合同シンポジウム ポスター

地域から、日本の医療の未来を描く

黒潮医療人養成プロジェクト 第3回 合同シンポジウム

3.8

2025 9:00～13:00 8:30～受付開始
ダイワロイネットホテル和歌山 4階 プリエ
和歌山県和歌山市七番丁 26-1

参加
無料

講師 穴倉 正展 氏
国立研究開発法人産業技術総合研究所 地域医療研究センター 連携推進課 国内連携グループ長

特別講演 「南海トラフ巨大地震の地震・津波想定はどのように理解すべきか」



講師 國井 修 氏
公益社団法人グローバルヘルス技術提携財団 (GHT Fund) CEO・専務理事

特別講演 「世界の大規模災害の現場から」



会場参加 **オンライン参加** **お申し込みはこちら**

本シンポジウムはハイブリッド形式で開催いたします。会場でのご参加・オンラインでの参加のどちらかをお選びいただけます。お近くの会場へお申し込みください。

お申し込み締切日
2025.2.14(金)



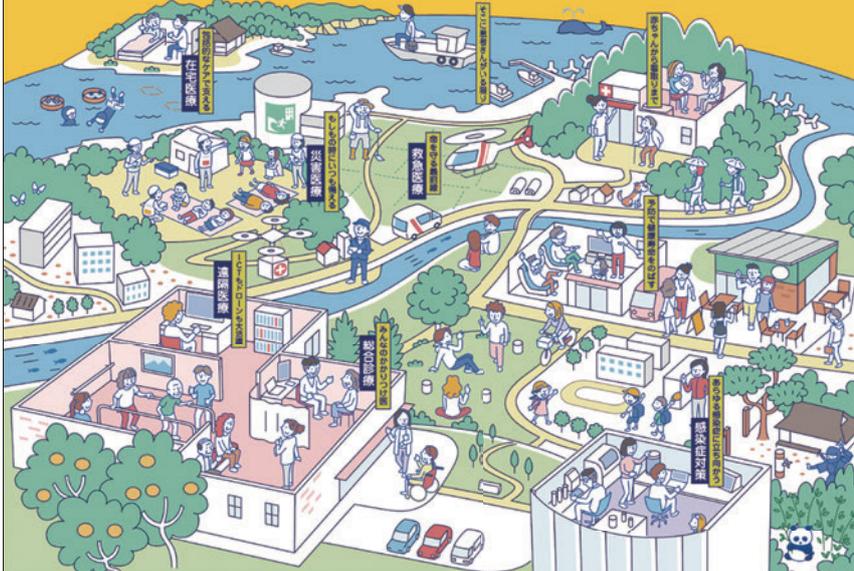
黒潮医療人養成プロジェクト

ウェブサイトはこちら



【プロジェクト代表校 / 高知大学】
連絡先：高知大学医学部附属病院総務課 地域医療支援課
☎088-889-2744 ① kuroshioding@kochi-u.ac.jp

【本プロジェクト当番校 / 和歌山県立医科大学】
連絡先：和歌山県立医科大学地域医療実習センター
☎073-441-0945



【主催】和歌山県立医科大学 【後援】和歌山県、一般社団法人和歌山県医師会、公益社団法人和歌山県病院協会、朝日新聞和歌山総局、毎日新聞和歌山支局、読売新聞和歌山支局、産経新聞社、共同通信社和歌山支局、時事通信社和歌山支局、日本経済新聞社和歌山支局、NHK和歌山放送局、和歌山放送、テレビ和歌山、紀伊民報、わかやま新報

■ 第3回 合同シンポジウム 掲載記事

- テレビ和歌山 NEWS (2025年3月8日配信記事)

新地域医療人材養成へシンポ

2025-03-08(土) 16:44

遠隔地医療の確保や南海トラフ地震の被害といった共通する課題を踏まえ、新たな医療人材を養成しようというシンポジウムが和歌山市で開かれました。和歌山市のホテルで開かれたシンポジウムは県立医科大学が開いたもので、高知大学と三重大学を合わせ、教職員や学生、医療関係者らおよそ170人がオンラインを含めて参加しました。3つの大学は、遠隔地での医療の確保や南海トラフ地震の被害など共通の課題を踏まえ、協同して地域の医療人材を育成しようというプロジェクトを進めていて、シンポジウムはその取り組みの一つとして開かれました。特別講演では、国立研究開発法人産業技術総合研究所の宍倉正展グループ長が、南海トラフ巨大地震と津波の想定をどう理解するかについて話しました。またシンポジウムでは、医学部生の防災意識についての調査研究やドローンを活用した医薬品の配送実験、遠隔外来の利活用といった具体的な取り組み事例が紹介され、参加者らは共通の課題に対する最新の知見を学んでいるようでした。

- NHK 和歌山 NEWS WEB (2025年3月8日配信記事)

和歌山 NEWS WEB**医療従事者が地域課題考えるシンポジウム
和歌山**

03月08日 11時59分



南海トラフ巨大地震や過疎などの地域の課題に医療従事者がどう向き合っていけばいいか考えるシンポジウムが8日、和歌山市で開かれました。

シンポジウムは南海トラフ巨大地震や過疎・高齢化といった共通の課題を抱える和歌山県立医科大学

と高知大学、三重大学の3者が開き、和歌山市の会場には医療従事者などおよそ90人が集まりました。

このなかで、産業技術総合研究所の宍倉正展グループ長が南海トラフ巨大地震の仕組みなどについて講演し、串本町の観光名所、橋杭岩の周辺には津波で運ばれてきたとされる大きな石が数多くあり、過去の災害を調査することが大切だなどと述べました。

和歌山県立医科大学の4年生の学生は「救急医を目指していて、巨大地震が発生した場合に貢献できるよう勉強していきたい」と話していました。

和歌山県立医科大学地域医療支援センターの上野雅巳センター長は「地震や津波について理解を深めてもらい、災害が発生した際、真剣に謙虚に対応できる医療人を養成したい」と話していました。

③ 学生相互派遣・交流

黒潮医療人養成プロジェクトでは、大学間の相互交流を積極的におこなっています。

各大学の特色を活かした実習や学術大会への合同参加を通じて、学生同士が学び合う機会を提供し、多様な地域ニーズに応えることのできる医療人の育成を目指しています。

■ アクティブラーニングコース（地域総合診療コース）

● 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会へ合同参加

地域総合診療コースでは、令和5年度より毎年、日本プライマリ・ケア連合学会学術大会に3大学合同で参加し、ポスターツアーを実施しています。令和6年度は、6月9日に実施された浜松市での学術大会に3大学の学生11名（高知大学5名、和歌山県立医科大学4名、三重大学2名）が参加し、うち学生3名（三重大学2名、高知大学1名）が演題発表をおこないました。



地域総合診療コースでの3大学合同での日本プライマリ・ケア連合学会学術大会への参加の様子（令和6年6月）

■ アクティブラーニングコース（災害救急・感染症コース）

● 3大学合同での防災訓練や研修を実施

災害救急・感染症コースでは、3大学合同で防災に関する実習をおこなっており、令和6年度は5月に高知県で、9月に三重県での合同実習をおこないました。

令和6年5月25、26日に高知県でおこなった総合防災訓練では、3大学の学生87名（高知大学医学科生7名・看護学科生60名、和歌山県立医科大学2名、三重大学18名）が参加し、消防防災航空センターにて施設の見学、実践的な災害時研修、総合防災訓練にて医療救護訓練をおこないました。また、9月28、29日に三重大学でおこなった大規模災害訓練では、3大学の学生147名（高知大学8名、和歌山県立医科大学4名、三重大学135名）が参加し、合同実習および病院防災施設、感染症危機管理センターの見学研修をおこないました。

また、令和7年3月13～15日には、2大学の学生13名で能登半島地震関連施設への視察をおこないました（高知大学4名、三重大学生9名）。

● 日本災害医学会総会・学術集会への合同参加

また、災害救急・感染症コースでは、日本災害医学会総会・学術集会への合同参加もおこなっており、今年度は令和7年3月6～8日に愛知県で開催された同集会に2大学の学生14名（高知大学11名、三重大学3名）が参加し、うち5名（高知大学3名、三重大学2名）が演題発表をおこないました。

アクティブラーニングコース（災害救急・感染症コース）での3大学合同実習の様子



救護訓練



防災ヘリを見学

高知県での
総合防災訓練
(令和6年5月)



トリアージタグ記入



合同研修（新興感染症対策のタイベック着脱訓練）

三重県での
大規模災害訓練
(令和6年9月)



能登半島地震関連施設の合同視察（令和7年3月）



市立輪島病院などを訪問

日本災害医学会総会・学術集会への合同参加（令和7年3月）



三重大学と高知大学が合同参加

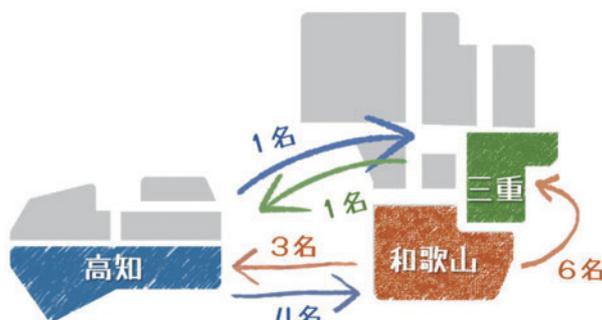
Ⅲ. 事業実施状況報告

■ 長期滞在型クリニカルクラークシップ (LIC)

令和5年度より大学間の学生相互派遣をおこなっています。令和6年度は各大学から以下のように学生の相互派遣をおこない、3大学の学生計15名が自県以外の病院での実習を経験しました。

● 大学間学生相互派遣実績 (令和6年度)

実施大学	派遣先	期間	人数	
高知大学	和歌山県	那智勝浦町立温泉病院	令和6年7月1日～26日	1名
		和歌山県立医科大学附属病院紀北分院	令和6年6月3日～28日	1名
	三重県	橋本市民病院	令和6年6月3日～28日 7月1日～26日	1名 1名
		組合立紀南病院	令和6年7月1日～26日	1名
和歌山県立医科大学	高知県	県立幡多けんみん病院	令和6年5月13日～31日 6月3日～21日	1名 1名
		県立あき総合病院	令和6年6月24日～7月12日	1名
	三重県	組合立紀南病院	令和6年4月8日～26日 6月3日～21日	1名 1名
		町立南伊勢病院	令和6年5月13日～31日 6月3日～21日	1名 1名
		県立志摩病院	令和7年2月10日～28日 3月3日～21日	1名 1名
三重大学	高知県	県立あき総合病院	令和6年5月7日～6月7日	1名



● オンラインでの合同振り返りの実施

LIC 期間中は、拠点病院で実習中の学生、指導医、各県の大学教員をオンラインでつなぎ、週1回の合同振り返りを実施しました。学生らの体験共有に加え、指導医や教員も実習へのフィードバックを得る貴重な機会となりました。



長期滞在型クリニカルクラークシップにおけるオンラインでの合同振り返り(令和6年4～7月)：
 (左) 和歌山県・三重県・高知県の拠点病院と各大学をオンラインで結んだ合同振り返りの様子
 (右) 和医大生と高知大生による、高知県・沖の島での実習報告(スライド発表)

● 長期滞在型臨床クラークシップにおける学生相互派遣交流の様子（令和6年4～7月）



高知県の大井田病院で実習中、離島診療に同行した和医大生と高知大生



高知県のあき総合病院で実習中、訪問診療に同行した三重大生と高知大生



三重県のくまのなる在宅診療所で実習中の高知大生と指導医



和歌山県の橋本市民病院で実習中の高知大生と指導医

● LIC 相互派遣交流を経験した学生・指導医・大学教員の声

LICをおこなった **学生**



他県との共通点や違いについて考察し、地域医療について考えることができた。



患者さんの胸部の聴診をした際に、他大学の学生がより正確に丁寧に所見を伝えていて、自分ももっと頑張らなければならないと思った。



自県以外の病院や他大学の学生と交流することで、経験と新たな引き出しができる。

実習医療機関の **指導医**



普段、他大学の学生が実習に来ることはあまりなく、病院としても大変刺激になった。



各大学でやってきた教育が違うというところが見えて他流試合的な面があり面白い。指導側にも新たな学びがある。



長いタームの実習の方がお互いを知ることができて、その学生に合わせた実習もできるので色々やりやすいというのは感じる。

大学の教員



オンラインでの合同振り返りを取り入れることで、学生の学びだけでなく、運営側へのフィードバックも得られ、継続的な改良をおこなうきっかけとなっている。



他大学や他病院の取組をみることで、よい取組を取り入れたら、実習のノウハウを共有できる。教育の質の向上につながるのではないかと。

※実習レポートや事業実施状況報告書、委員会議事録より引用

Ⅲ. 事業実施状況報告

4 サイトビジット

■ 体験実習

● 弘前大学の教職員が高知県で体験実習を視察

令和7年2月17～19日、弘前大学の教職員5名のサイトビジットを高知大学にて受け入れました。高知大学にて臨床体験実習の視察や施設見学をおこない、医学部長、病院長と懇談の場を持ちました。また、幡多けんみん病院での体験実習に弘前大学教職員が同行し、地域での実習の様子を視察されました。

関係者によるサイトビジット会議では、事業の進捗状況に関する情報共有をおこなうとともに、今後の拠点間での連携強化、協力体制の構築に向けた議論が交わされました。

弘前大学による高知大学及び拠点病院へのサイトビジットの様子（令和7年2月）



高知大学医学部附属病院新病棟（運用開始前）を視察



附属病院における臨床体験実習Ⅲ（救急部）視察



サイトビジット会議



幡多けんみん病院での体験実習を視察

■ アクティブラーニングコース（災害救急・感染症コース）

● 3大学合同実習に合わせ教職員がサイトビジットを実施

令和6年5月25、26日の消防防災航空センター視察及び高知県総合防災訓練に、3大学の教職員10名（高知大学4名、和歌山県立医科大学3名、三重大学3名）が参加し、災害に関する取組について相互に評価をおこないました。また、令和6年9月28日、三重大学での大規模災害訓練に高知大学2名、和歌山県立医科大学1名の教職員が参加し、意見交換をおこないました。

■ アクティブラーニングコース（地域総合診療コース、医療 DX コース）

● 3大学の教職員が高知大生の研究活動などを見学

地域総合診療コースでは毎年、3大学持ち回りでサイトビジットを実施しており、令和6年度は5月20、21日に高知県にて実施しました。高知大学にて地域総合診療コース、医療DXコースの研究活動の様子を見学し、学生や教員らと意見交換をおこないました。また、3大学の教職員計10名（高知大学4名、和歌山県立医科大学3名、三重大学3名）が参加しサイトビジット会議を実施しました。各大学がアクティブラーニングコースの実施状況について報告し意見交換をおこなったほか、T-COMEの運用や合同シンポジウムについても協議をおこないました。

■ 長期滞在型クリニカルクラークシップ（LIC）

● 3大学の教職員が高知県の拠点病院を視察

令和6年5月19、20日に、地域総合診療コースのサイトビジットとあわせて、3大学の教職員計8名（和歌山県立医科大学3名、三重大学3名、高知大学2名）が、高知県の拠点病院（幡多けんみん病院、大井田病院、あき総合病院）を訪問しました。あき総合病院では、LIC履修中の学生2名（三重大学、高知大学）と指導医からのヒアリング、意見交換をおこないました。

アクティブラーニング（地域総合診療、医療DXコース）、LICでのサイトビジットの様子（令和6年5月）



地域総合診療コースの授業見学



あき総合病院で実習中の学生（三重大学、高知大学）にヒアリング



サイトビジット会議



高知大学、三重大学、和歌山県立医科大学の教職員

Ⅲ. 事業実施状況報告

3大学合同防災関連施設見学・特別講演（和歌山県）

概要と目的	3大学の教員、学生が、和歌山の防災施設見学をおこない意見交換することで、各県の防災医療について学びを深める。
日時	令和7年3月7日（金）
主催	和歌山県立医科大学
会場	稲むらの火の館
参加者	24人（3大学教職員12人、高知大学学生3人、和歌山県立医科大学学生5人、三重大学学生4人）

タイムスケジュール

12:00	J R・和歌山駅東口集合
13:00～15:20	稲むらの火の館（濱口梧陵記念館、津波防災教育センター）見学 特別講演 講師：平田隆行（和歌山大学システム工学科准教授、災害科学・レジリエンス共創センター副センター長） 題目：「被災前だからできる復興まちづくり・地域の大学の役割」

施設見学 当日の様子



3. 地域志向性アンケート調査

① 研究計画書

(1) 背景と目的

医学の進歩に伴い、医療は高度化、細分化が進み、医師の大病院、都市部への偏在が社会問題となっている。これに対し、全国の医学部では、入学定員を増やし、地域枠として卒業後の医師不足地域での勤務を義務付け、医師の地域偏在の解消に努めている。しかし、地域枠卒業医師が地域ニーズの高い総合的な領域（総合診療、救急、感染症、等）に進むことを期待されているにもかかわらず、専門分化された診療科を志向することも少なくない。学部教育として学生に地域ニーズへの深い理解が求められるようになり、令和4年度、文部科学省の補助事業「ポストコロナ時代における医療人材養成拠点形成事業」が公募された。

高知大学、和歌山県立医科大学、三重大学では「黒潮医療人養成プロジェクト」として応募し採択された。3大学の立地する高知県、和歌山県、三重県では、過疎高齢化が進み、中山間地が多く、長い海岸線に沿って集落が点在するなど社会的な状況が類似しており、医療の安定的な確保に共通課題がある。また、南海トラフ巨大地震が発生した際には、甚大な津波被害が予想されている。本事業では、3大学で連携して地域指向型医学教育を推進し、地域ニーズを深く理解し、課題解決のためにリーダーシップを発揮する医療人を養成することを目標としている。

「黒潮医療人養成プロジェクト」では、各県に地域医療人材養成拠点病院を定め、同院での低学年からの体験実習、高学年での長期滞在型のクリニカルクラークシップ（Longitudinal Integrated Clinical Clerkship）、複数学年にわたるアクティブラーニングコース、3大学合同シンポジウムを計画している。こうした地域指向型教育の効果を測るために、継続的に学生の地域指向性を調査することとした。

(2) 研究方法等

ア 研究対象者

令和4年度から令和10年度に高知大学・和歌山県立医科大学・三重大学に在籍している医学部の学生を対象とする。毎年、1年生（入学時）、3年生、5年生、6年生（卒業時）を対象にアンケート調査を実施する。アンケート実施にあたり、適切な同意を得る。

イ 研究期間

令和4年度（倫理委員会承認日）～令和11年3月31日

ウ データ収集方法

3大学それぞれに自大学の学生に対し、オンラインで実名のアンケート調査を実施する。アンケート調査項目は、出身地の人口規模、地域指向性尺度15項目とする。アンケート調査項目以外に、大学が把握し所属する教員に開示している学生基本情報（出身地、入試種別、学年、履修科目、等）も利用する。地域指向性尺度は、川本らが開発した地域志向性尺度（文科省科研15K04236）を使用する。

エ 分析方法

研究責任者または研究分担者は、自大学の各学生のアンケート回答データから、個人情報を削除し番号を付与し匿名化する。管理番号と学生の個人情報の対応表を別途作成し、アンケート回答データを扱うコンピュータと接続していない外部記録媒体に分けて保管する。管理番号と個人情報の対応表を保存した外部記録媒体は施錠した保管庫で厳重に管理する。研

Ⅲ. 事業実施状況報告

究分担者は匿名化したアンケート回答 データのみを研究責任者に送付する。

地域指向型の教育プログラムの履修により、学生の地域指向性が変化したかを調査し、プロジェクトの有効性を検証する。また、入試制度（地域枠）、出身地の違いにより効果に差異が生じるかも検証する。

(3) 倫理的配慮

本研究は、高知大学医学部倫理委員会の承認を受けることとする。データは厳格に管理することとし、本研究の目的のために限り使用し、第三者に提供及び開示を行わない。研究終了後、不要となるデータ等は速やかに廃棄することとする。

(4) 研究組織

高知大学医学部家庭医療学講座	阿波谷 敏英（研究代表者）
和歌山県立医科大学地域医療支援センター	蒸野 寿紀
三重大学大学院医学系研究科統合薬理学分野	西村 有平

② 令和6年度調査結果

(1) 回答数 / 対象者数

全体として73.1%の回答率であった。令和4年度53.3%、令和5年度71.8%と比べて遜色のない回答数を得ることができている。

学年	高知大学		和歌山県立医科大学		三重大学	
1年生	108 / 114	94.7%	81 / 103	78.6%	125 / 128	97.7%
3年生	108 / 123	87.8%	18 / 106	17.0%	97 / 124	78.2%
5年生	94 / 104	90.4%	74 / 88	84.1%	114 / 125	91.2%
6年生	63 / 103	61.2%	90 / 106	84.9%	11 / 121	9.1%
全体	373 / 444	84.0%	263 / 403	65.3%	347 / 498	69.7%

(2) 地域志向性スコア

入学時は高いが学年が上がるにつれ低下、卒業時に再び上昇する傾向がある。また、出身地の人口規模が小さいほどスコアが高い傾向がある。いずれも過去の調査と同様である。

学年	高知大学		和歌山県立医科大学		三重大学	
1年生	50.54 ± 6.77	n=108	49.03 ± 6.89	n= 80	49.31 ± 7.15	n=123
3年生	47.16 ± 8.15	n= 99	45.75 ± 5.34	n= 16	47.09 ± 6.26	n= 96
5年生	48.78 ± 6.20	n= 90	45.04 ± 9.15	n= 71	46.96 ± 8.17	n=110
6年生	49.90 ± 6.50	n= 62	46.67 ± 8.32	n= 89	46.18 ± 5.14	n= 11
全体	49.06 ± 7.10	n=359	46.90 ± 8.11	n=256	47.82 ± 7.28	n=340

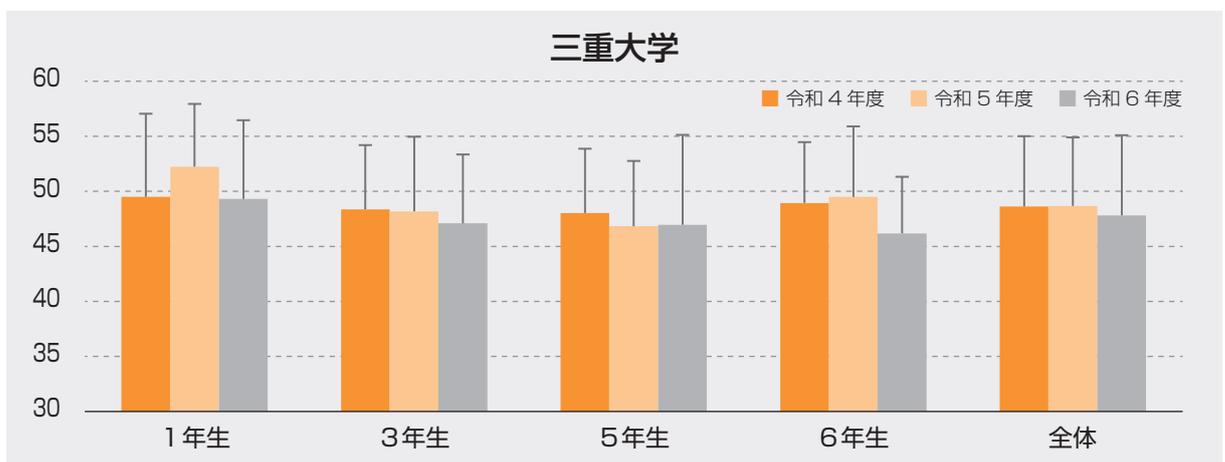
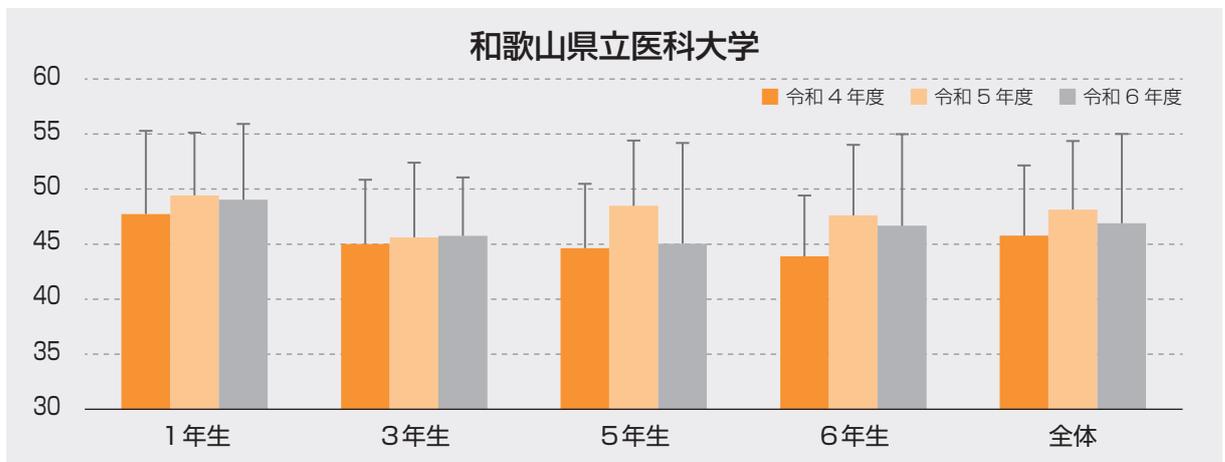
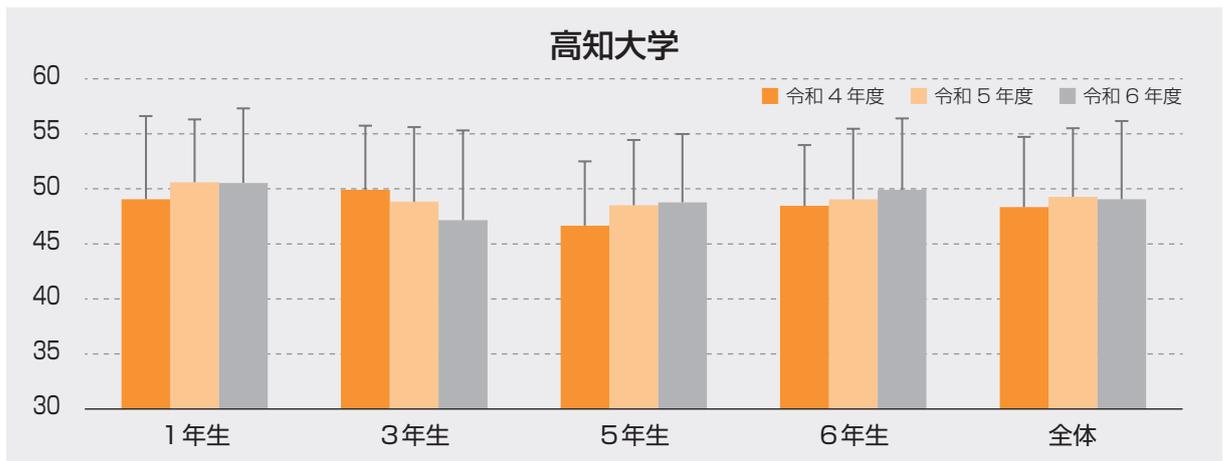
出身地	高知大学		和歌山県立医科大学		三重大学	
大都市	47.05 ± 7.64	n= 88	46.25 ± 7.87	n= 71	44.10 ± 7.50	n= 77
県庁所在地	49.42 ± 6.90	n=145	46.76 ± 8.06	n= 98	47.80 ± 7.13	n=117
地方都市	50.13 ± 6.52	n=119	46.94 ± 8.14	n= 77	49.70 ± 6.60	n=136
山村・離島	48.43 ± 9.78	n= 7	52.60 ± 9.09	n= 10	51.80 ± 4.73	n= 10
全体	49.06 ± 7.10	n=359	46.90 ± 8.11	n=256	47.82 ± 7.28	n=340

3 経年比較

学生全体のスコアを令和4～6年度で比較したが、いずれの大学においても有意な変化はない。

年度	高知大学	和歌山県立医科大学	三重大学
令和4年度	48.34 ± 6.38 n=247	45.77 ± 7.16 n=273	48.63 ± 7.04 n=197
令和5年度	49.28 ± 6.23 n=379	48.14 ± 7.76 n=277	48.67 ± 7.17 n=332
令和6年度	49.06 ± 7.10 n=359	46.90 ± 8.11 n=256	47.82 ± 7.28 n=340

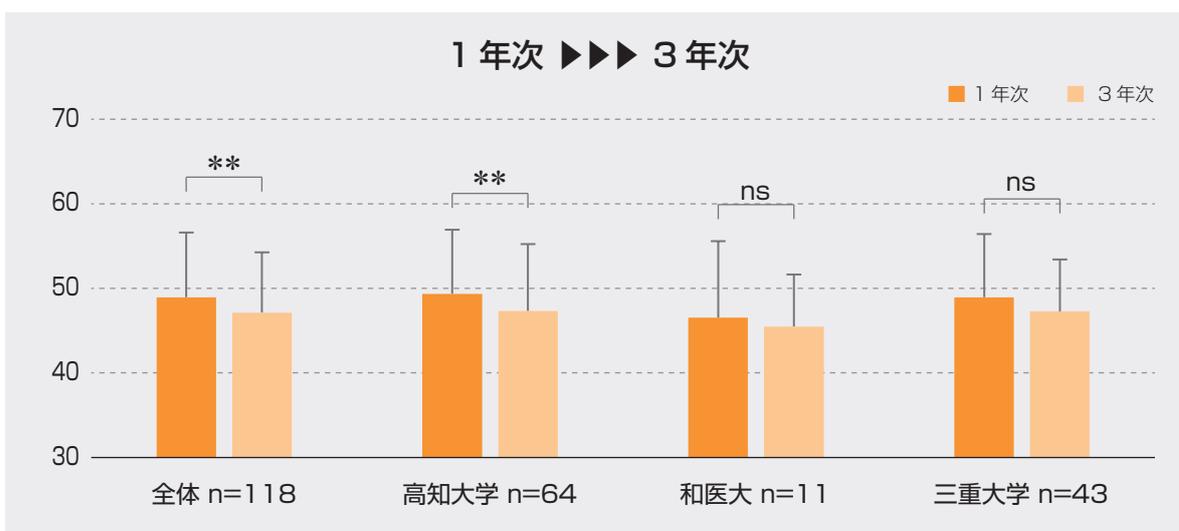
学年別に検討したが、大学、学年により特定の傾向は見られなかった。地域志向性の高い学生が入学しているか、卒業時点での地域志向性を高められているか、今後とも注視をしていく必要がある。



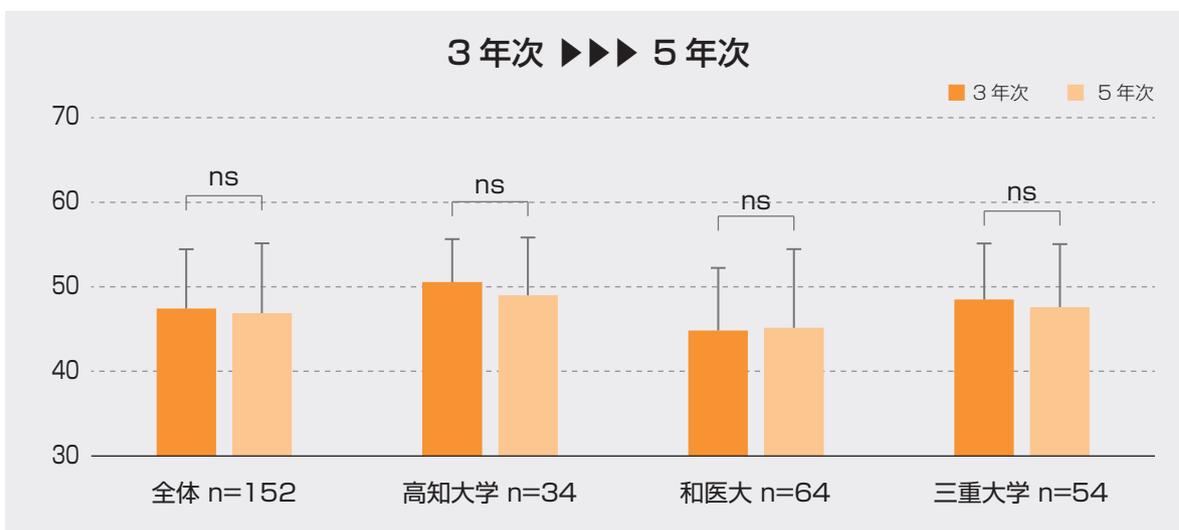
Ⅲ. 事業実施状況報告

令和4年度(1年次、3年次)と令和6年度(3年次、5年次)、令和5年度(5年次)と令和6年度(6年次)の両方の回答が得られた学生について、地域志向性スコアを比較した。両年で有効回答を得られた学生は、それぞれ118名、152名、141名であった。1年次から3年次にかけて地域志向性の有意な低下が認められた。

	全体 n=118	高知大学 n=64	和歌山県立医科大学 n=11	三重大学 n=43
令和4年度1年次	48.95 ± 7.65	49.36 ± 7.58	46.55 ± 9.04	48.95 ± 7.47
令和6年度3年次	47.13 ± 7.65	47.31 ± 7.92	45.45 ± 6.19	47.28 ± 6.14
増加量	-1.82 ± 6.20	-2.05 ± 5.94	-1.09 ± 7.82	-1.67 ± 6.26

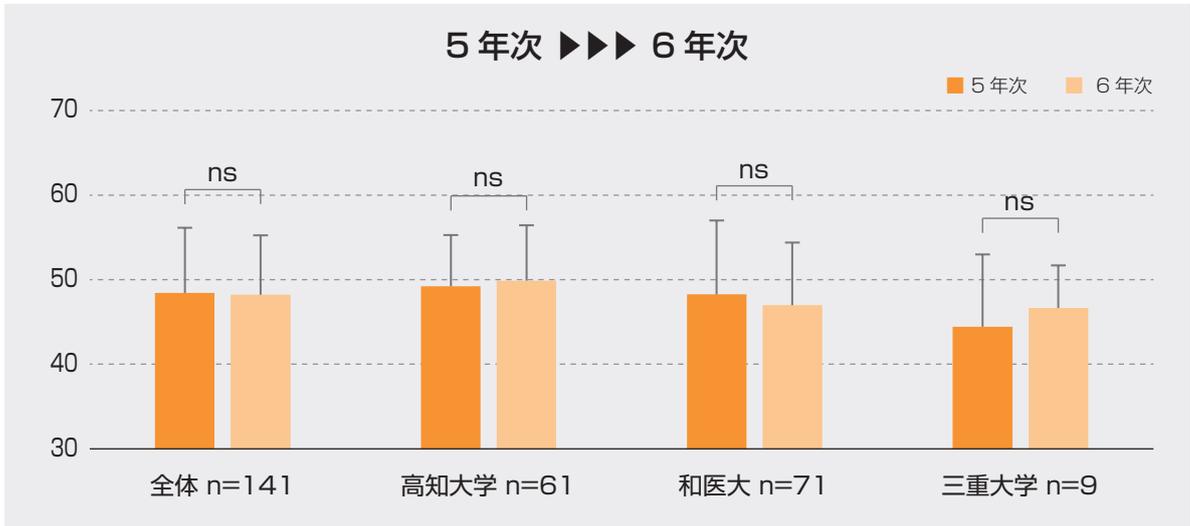


	全体 n=152	高知大学 n=34	和歌山県立医科大学 n=64	三重大学 n=54
令和4年度3年次	47.42 ± 7.02	50.56 ± 5.08	44.84 ± 7.40	48.50 ± 6.63
令和6年度5年次	46.89 ± 8.26	49.00 ± 6.84	45.16 ± 9.30	47.61 ± 7.44
増加量	-0.53 ± 8.93	-1.56 ± 5.02	0.31 ± 11.68	-0.89 ± 6.91



paired t-test *P<0.05 **P<0.01

	全体 n=141	高知大学 n=61	和歌山県立医科大学 n=71	三重大学 n=9
令和5年度5年次	48.53 ± 7.65	49.23 ± 6.05	48.25 ± 8.75	44.44 ± 8.55
令和6年度6年次	48.26 ± 7.06	49.89 ± 6.55	46.99 ± 7.41	46.67 ± 5.02
増加量	-0.27 ± 7.10	0.66 ± 7.01	-1.27 ± 7.32	2.22 ± 5.09



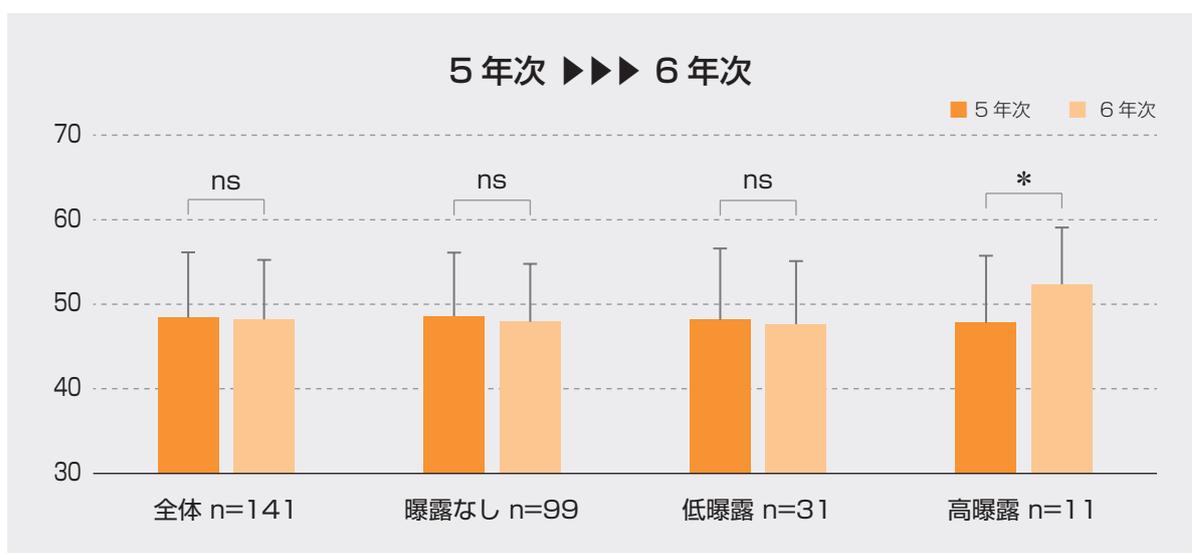
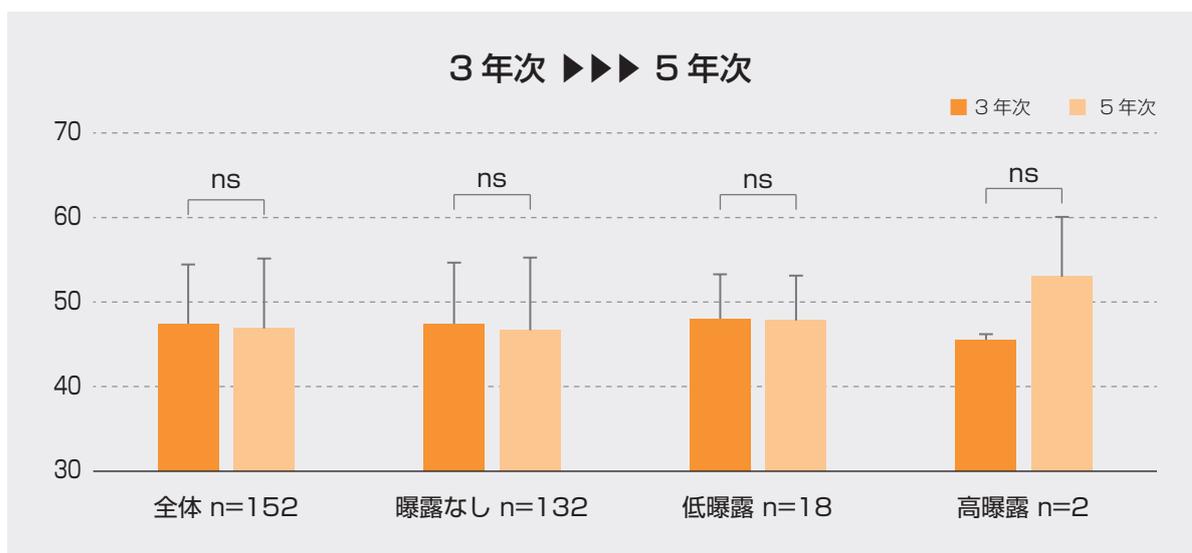
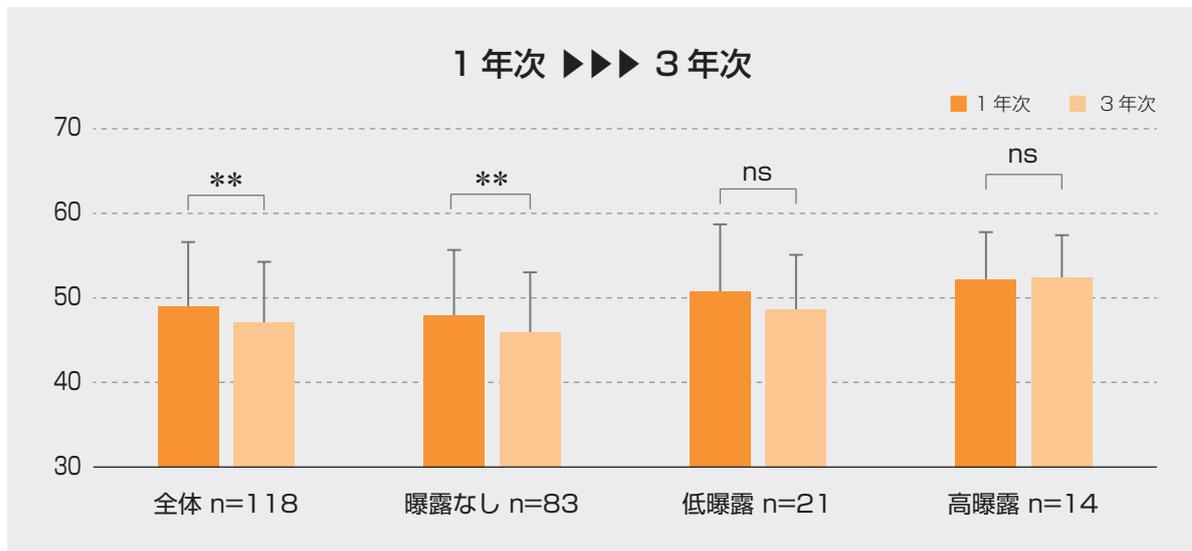
paired t-test *P < 0.05 **P < 0.01

次に、これら経年的な変化を追跡できた学生を、期間内での本プロジェクトのプログラム（必修を除く）の受講状況により、高曝露、低曝露、曝露なしの3群に分けて検討をおこなった。概ね1日単位のプログラムを1ポイント、1週間で5ポイントとして各学生の受講状況を算定した。20ポイント以上の学生を高曝露群、0ポイントを曝露なし群、それ以外を低曝露群とした。各群の構成は、次のとおりである。

	令和4年度1年次 ▶ 令和6年度3年次	令和4年度3年次 ▶ 令和6年度5年次	令和5年度5年次 ▶ 令和6年度6年次
曝露なし	83	132	99
低曝露	21	18	31
高曝露	14	2	11
計	118	152	141

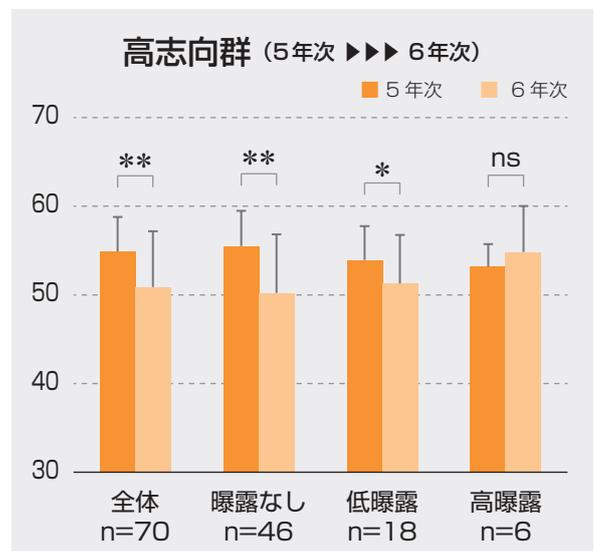
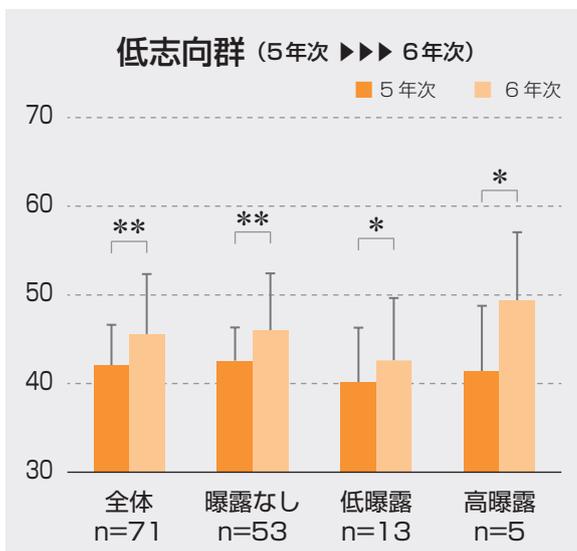
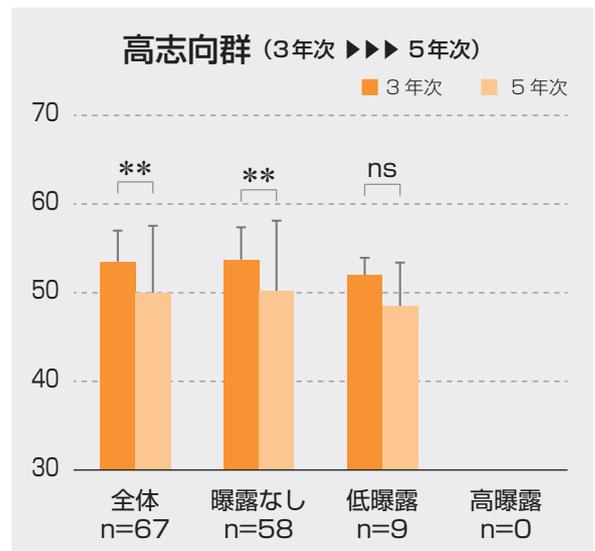
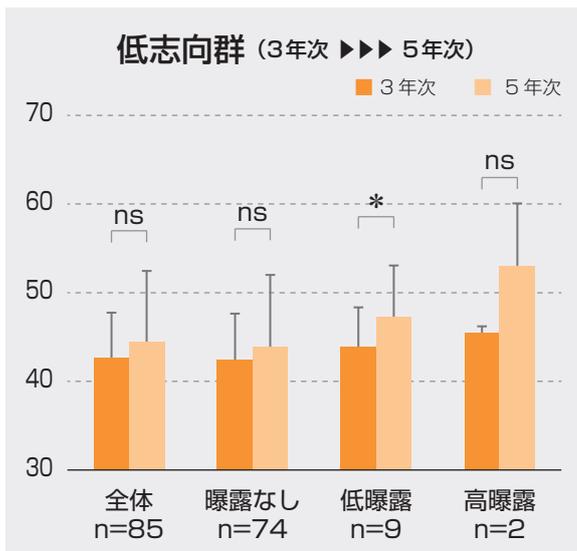
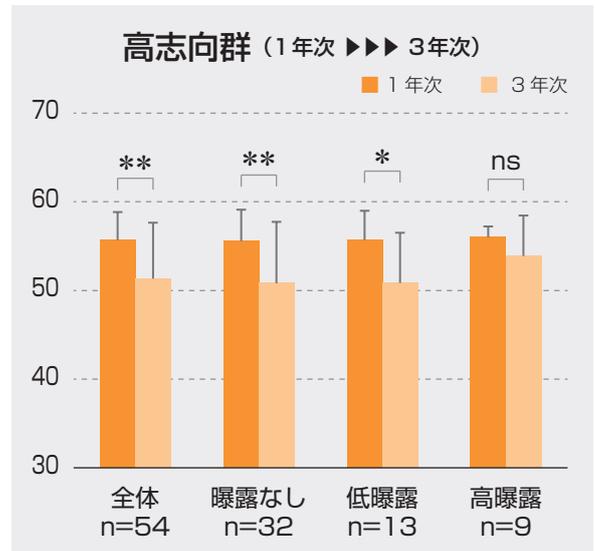
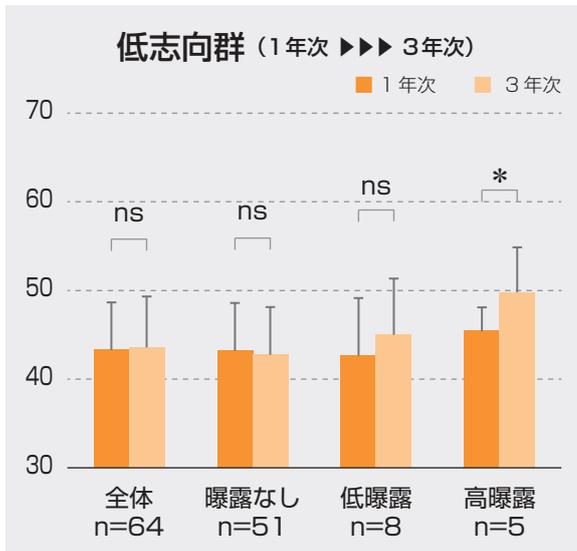
Ⅲ. 事業実施状況報告

地域志向性スコアの平均は、1年次から3年次にかけて有意に低下していた。教育プログラムの受講状況別に検討すると、1年次から3年次にかけて曝露なし群で有意に低下、5年次から6年次にかけて高曝露群で有意に上昇していた。



paired t-test *P<0.05 **P<0.01

次に1回目のアンケートの地域志向性スコアにより層別化して検討をおこなった。1回目の地域志向性スコアが中央値以下の学生を低志向群、中央値を超える学生を高志向群としてそれぞれ教育プログラムの受講状況別に検討をおこなった。



paired t-test *P < 0.05 **P < 0.01

Ⅲ. 事業実施状況報告

1 回目のアンケートの地域志向性スコアが低い学生（低志向群）は、5 年次から 6 年次にかけて、有意にスコアが上昇したが、1 年次から 3 年次、3 年次から 5 年次はスコアの有意な変化はなかった。しかし、教育プログラムを受講した学生は、1 年次から 3 年次の高曝露群、3 年次から 5 年次の低曝露群において有意にスコアが上昇した。

一方で 1 回目のスコアが高い学生（高志向群）は 1 年次から 3 年次、3 年次から 5 年次、5 年次から 6 年次といずれにおいても有意にスコアが低下した。しかし、教育プログラムを受講した学生は、1 年次から 3 年次の高曝露群、3 年次から 5 年次の低曝露群、5 年次から 6 年次の高曝露群において、有意な低下はなかった。

いずれも教育プログラムの履修状況が、地域志向性スコアの良好な変化を関係していることが明らかとなった。教育プログラムによりスコアが上昇した可能性はあるが、スコアが上昇した学生が興味を持ち教育プログラムを選択した結果であるという可能性もある。

また、低志向群では本プロジェクトの教育プログラムと関係なく 5 年次から 6 年次に地域志向性スコアが上昇し、高志向群では教育プログラムと関係なく 1 年次から 3 年次、3 年次から 5 年次、5 年次から 6 年次にスコアが低下していることは、通常のカリキュラムが、このような傾向を誘発している可能性がある。学生の地域志向性を涵養すること、志向性の高まった学生が地域志向性をさらに高める経験ができるように学部教育全体を見直すことも検討の価値があると考えられる。

4. 広報活動

■ ウェブサイト

黒潮医療人養成プロジェクトの3大学だけではなく、他大学、地域医療機関の従事者、行政、地域の人々にもプロジェクトを知っていただき、つながりを深めることを目的とし、令和5年2月に開設しました。Instagramとも連動し、プロジェクトの活動の様子などを発信しています。

● アクセス

・ウェブサイト

URL : <https://kuroshio-pjt.com/>



・Instagram

ID : kuroshio_pj



黒潮医療人養成プロジェクトのウェブサイトトップページデザイン

● コンテンツ

- | | |
|-------------|---------------------------------|
| ・はじめに | 黒潮医療人養成プロジェクトの概要、事業責任者のあいさつ等 |
| ・プログラム説明 | 3大学の各教育プログラムの説明 |
| ・e-learning | 履修学生用のオンライン学習動画コンテンツ |
| ・学生の声 | 本プロジェクトのプログラムを経験した学生と教員との座談会の様子 |
| ・シンポジウム | 合同シンポジウムに関する告知や参加申し込み |
| ・お知らせ・トピックス | 更新のご案内、イベント開催の告知、事業報告書の掲載など |
| ・関係者ページ | 事業推進委員会、事業評価委員会の議事録など |
| ・関係機関リンク | 地域医療人材養成拠点病院のウェブサイトのリンク |

● ウェブサイト来訪者解析

Google アナリティクス4によりウェブサイトに来訪者の動向を分析し、プロジェクトの魅力がより伝わるよう、発信内容や広報活動の向上に努めています。3月末時点で、サイトの総ユーザー数は6,882人、総表示回数は7.2万回を記録しました。昨年の同時期と比べると総表示回数は約6倍に増加しており、今後も積極的な情報発信に努めます。

● 「学生の声」のページ

プロジェクトの学びの魅力や成果を、学生の体験談を通じて生き活きと伝えることを目的としています。令和6年8月に新たな記事を追加しました。アクティブラーニングコース（地域総合診療）で学会発表を経験した三重大学の学生へのインタビューを指導教員との座談会形式で紹介しています。



アクティブラーニング 座談会

地域医療の学びと科学的視点

～日本プライマリ・ケア連合学会学術大会で研究発表～
令和6年6月に行われた第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会2024において、三重大学アクティブラーニングコース地域総合診療コースの学生2名が研究発表を行いました。地域医療を学ぶ中で感じた疑問や興味をどのように研究として組み立ててまとめたのか、その苦労や成果についてお話をお聞きしました。



アクティブラーニング（地域総合診療コース）座談会記事（一部抜粋）



研究活動を通じて得たものは？

教員 今回、研究から発表までの全体を通じて、自分自身で気づいたことやよかったことは何かありますか？

学生 僕は、学会参加は今回が2回目でしたが、学生の間に参加しておくことで、学会の空気感や先生方がどのように交流しているのかなどがわかり、いい経験になりました。

また、僕はテーマ決定のアイデア段階において、いろいろな方向性を思いついて若林先生と相談しながら研究を組み立てていきましたが、その道筋の立て方や、結論をどう考えるかという一連のプロセスを経験できたことが、とてもよかったと感じています。

教員 3年生できちんと科学的な根拠に基づいて物事を見るということを経験した上で、4年生の終わりから臨床実習に臨むというのは、とてもよい流れなのではないかなと思いますね。

■ Instagram

プロジェクトのイベントや体験実習の様子を Instagram に投稿し、情報発信をおこなっています。Instagram の活用により、より多くの人々や医療機関との情報共有が可能になり、交流の幅が広がりました。現在、フォロワー数は 456 人で投稿数は開設当時から 86 となっています（令和7年3月24日時点）。今後は投稿内容を充実させ、情報発信の相乗効果を高めていく予定です。



◀▲ インスタ投稿記事（一部抜粋）



2025.2/5-7 黒潮医療人養成プロジェクト体験実習
(高知大学医学部 臨床体験実習 I in 高知県立あき総合病院)
高知大学医学部キャンパスからバスで東へ 50 分ほど、あき総合病院へ！
阿波谷教授によるオリエンテーションの後、研修医の先生に講演をしていただき、
病院見学を行いました。院長先生へのご挨拶では、皆さん緊張しています。
2日目からはそれぞれの診療科にわかれて実習を行います。皆さん、頑張ってくださいね。

黒潮医療人養成プロジェクト ロゴマークについて

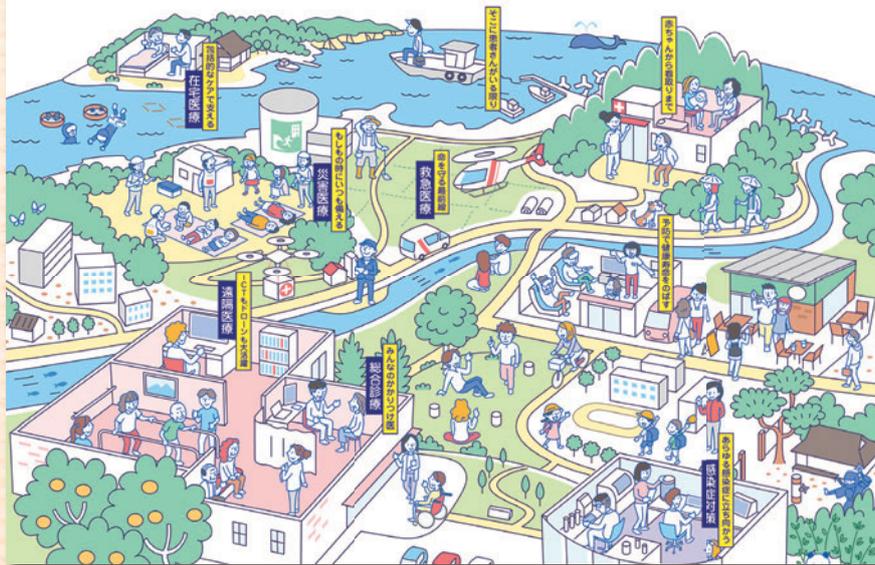


黒潮医療人養成プロジェクト

黒潮の“K”の文字を3色のブロックで表現し、黒潮の波のイメージを合わせています。

色は、和歌山県立医科大学がオレンジ、三重大学がグリーン、高知大学がブルーと各大学のイメージカラーを取り入れています。

ロゴは、白と濃紺でクリーンな医療のイメージと親しみのある印象の書体としています。



文 部 科 学 省
ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業

黒潮医療人養成プロジェクト
令和6年度 事業報告書

(令和6年4月～令和7年3月)

高知大学・和歌山県立医科大学・三重大学

事務局 高知大学医学部・病院事務部
総務企画課 地域医療支援室
TEL : 088-888-2744
E-mail : kuroshiodmp@kochi-u.ac.jp



黒潮医療人養成プロジェクト